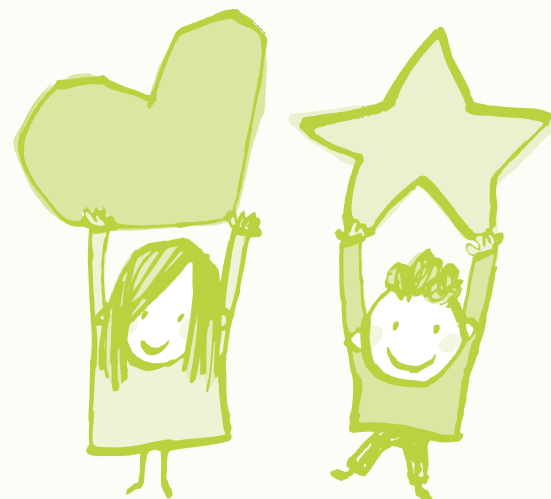


公益財団法人 がんの子どもを守る会
2021年度事業報告書

2021年4月1日～2022年3月31日

CCAJ ANNUAL REPORT
Apr.01,2021～ Mar.31,2022



公益財団法人 がんの子どもを守る会

Children's Cancer Association of Japan

〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12

電話:03-5825-6311 (代表)

03-5825-6312 (相談)

<http://www.ccaj-found.or.jp/>

がんの子どもを守る会

検 索



CCAJ

公益財団法人 がんの子どもを守る会
Children's Cancer Association of Japan

CONTENTS

	理事長あいさつ	1
	組織概要	2
	会の歴史	4
	2021年度収支報告	6
	2021年度の事業概況	
	①療養援助事業	10
	②相談事業及び関連事業	11
	③治療研究事業	16
	④総合支援施設運営事業	18
	⑤小児がん・難病対策	19
	⑥支部活動	20
	⑦広報・啓発・募金活動 等	22
	⑧国際活動	26
	⑨奨学金事業	26
	⑩ボランティアコーディネート・研修会	27
	⑪調査研究協力	28
	⑫2021年度年次大会開催	28
	⑬クリスマスプレゼント	29
	⑭企業・団体からのご協力	29
	寄付・募金者一覧	30

がんの子どもを守る会とは

1968年10月に小児がんで子どもを亡くした親たちによって、小児がんが治る病気になってほしい、また小児がんの子どもを持つ親を支援しようという趣旨のもと設立され、子どもの難病である小児がんに関する知識の普及、相談、調査・研究、支援、宿泊施設の運営、その他の事業を行い、社会福祉及び国民保健の向上に寄与することを目的としています。小児がんは医学の進歩に伴って「不治の病」から「治る病気」になりつつあります。しかし、未だ病死順位の1位であること、たとえ治療を終えても小児がんの患児とその家族はさまざまな問題を抱えているのが実情です。当会は患児・家族が直面している困難や悩みを少しでも軽減すべく、多くの方々の支援のもとに活動をしています。

理事長あいさつ

公益財団法人がんの子どもを守る会
理事長 山下 公輔



2021年度事業報告書の発行に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

一昨年度、昨年度と2年続けて緊急事態宣言発令下で事業報告書の冒頭ご挨拶の筆を取りましたが、今年は緊急事態宣言もまん延防止等重点措置も出されていない中で迎えたゴールデンウィークの直後にこの一文を書いております。しかし、既に2年以上の長きに亘って続いている新型コロナの感染対策が必須な状況は、まだ当分は続くものと思われ、不自由な環境下で小児がん患児や家族そして経験者の支援に携わっておられる全国の皆様のご努力とご苦労に心から感謝申し上げます。

昨年に続いてこの1年、守る会のこれまで50余年の歴史で経験したことのない事態が継続する中で、私たちは出来る限り普段通りの事業活動遂行を目指し、ご支援いただいている皆様に支えられながら、2021年度を乗り切ることが出来、本事業報告書を無事発行出来る事を喜ばしく思っております。

2021年度も前年に引き続きコロナ禍の下での制限の多い活動とならざるを得ず、経済面でも楽観はできない状況ではありましたが、詳しくは本報告書をお読みいただきたいと思います。お陰様で何とか無事に収支バランスの取れた決算を実現することができました。とはいえ、募金活動などの低迷によるご寄付収入の不足を、制約の多かった事業活動支出の縮小によりカバーできたと言う状況は昨年度とほぼ同じであります。

出来る限り普段通りの事業活動遂行を目指したと申しましたが、昨年同様に様々な面で制限は多く、年次大会や講演会等、また支部を含めた地方での集会等は開催できた場合もその大半がWeb開催となり、更に啓発や寄付をお願いするイベント等も行えない状況は続いております。そのため期待する活動効果の発揮や対面での相互理解、更には皆様に直接お目にかかってのご支援のお願いなどの面では大きなハンディキャップがありました。しかし一方で、Webの活用も手馴れてきて効率的に行えるようになり、支出面での交通費や会場費の削減などとも合わせた効率性向上に助けられたのも事実であります。

このように、事業活動にある程度の縮小傾向はありましたが、その中で昨年の事業報告書でご紹介した新たな活動は、その後順調に推移しております。その一つの、休眠預金等活用法による助成を受けた小児がん経験者の健康管理プロジェクトは、昨年秋季に第一段階の成果として「小児がん経験者の健康管理サイト」の開設を実現し、既にその展開に向けた活動に入っております。又、2023年度に予定されている国のがん対策推進基本計画改定に向けた要望書取り纏めプロジェクトも、予定通りに全国の有志の方々が集まったワーキンググループによる策定作業を2021年度中に目途を付けることが出来、新年度に入り5月には厚生労働省及び文部科学省に要望書を提出することになっております。これらの新たな活動は、新年度以降に引き続き積極的なフォローアップや更新を続けて行くこととなりますが、新型コロナウィルス禍に負けることなく積極的に新たな活動の実践ができた証でもあり大変喜ばしく思っております。常日頃から当会の活動に多大なご支援を頂いている皆さま、事業活動に直接参加して下さっている方々、そして日々の活動を担う事務局職員の皆さんに、改めて御礼申し上げます。

残念ながら、小児がん患児・家族だけではなく、小児がん患児・家族に心を寄せていただいているご支援者の方々も含め全ての人々に覆いかぶさる、新型コロナウィルスの暗雲が完全に晴れる目処は未だに立っていません。更に、遠くウクライナの地では戦火による小児がん患者家族を含む市民の犠牲が続いており、当会も微力ながらヨーロッパの親の会を通じて経済的な支援を行うなどの厳しい現実もあります。それらを想いながら、当会が2021年度を無事に乗り越えることができたことに心から感謝しております。

私たちはどんな環境下でも使命である小児がん患児・家族の支援を続けて参ります。患児・家族の皆さんだけでなく、当会の活動をご理解いただきご支援を頂いている皆様におかれましても、くれぐれもご自愛いただきこの厳しい環境を乗り越えられることを衷心からお祈り致しております。不肖私を含め理事並びに事務局職員一同、引き続き努力を続けて参る所存であり、皆様におかれましては、当会の事業活動への一層のご理解と継続的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2022年5月吉日



組織概要

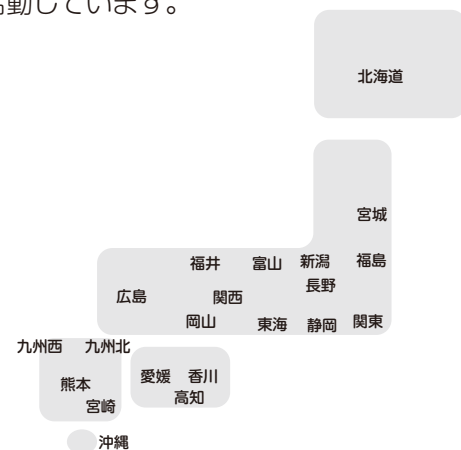
※ 2022 年 3 月 31 日現在

名 称	公益財団法人 がんの子どもを守る会
設 立	1968 年 10 月 31 日
設 立 趣 旨	当会は、1968 年 10 月に小児がんで子どもを亡くした親たちによって、小児がんが治る病気になってほしい、また小児がんの子どもを持つ親を支援しようという趣旨のもとに設立されました。
主 務 官 庁	内閣府
主たる事務所	浅草橋 住所：〒111-0053 東京都台東区浅草橋 1-3-12 TEL：03-5825-6311(代表) FAX：03-5825-6316
従たる事務所	亀 戸 住所：〒136-0071 東京都江東区亀戸 6-24-4 TEL：03-3638-6551(代表) FAX：03-3638-6553 大 阪 住所：〒541-0057 大阪府大阪市中央区北久宝寺町 2-3-1 TEL：06-6263-1333(代表) FAX：06-6263-2229
組 織	理 事 12 名（理事長 1 名、副理事長 3 名） 監 事 1 名 評 議 員 11 名 職 員 28 名 普通会员 1,671 名 賛助会員 247 名（法人 15 社、個人 232 名）

支 部	当会には全国に 21 の支部があります。各地域の会員ボランティアにより組織され、地元の医療関係者等の協力を得ながら、各地のニーズにあわせた相談会や交流会などを開催し、患児・家族と医療関係者のコミュニケーションを深めるとともに、患児・家族のよりよい療養生活の実現を目指して活動しています。
-----	---

21 支部

北海道、宮城、福島、長野、新潟、福井、富山、関東、静岡、東海、関西、岡山、広島、香川、愛媛、高知、九州北、九州西、熊本、宮崎、沖縄



役 員 名 簿

理 事 長	
山下 公輔	親/元 PwC アドバイザリー合同会社 シニアアドバイザー
副理事長	
細谷 亮太	当会嘱託医/聖路加国際病院 顧問
近藤 博子	親/元 当会ソーシャルワーカー
増子 孝徳	親/弁護士
理 事	
橋都 浩平	株式会社メディカルノート 社外取締役/ 株式会社ジャパン・メディカルカンパニー 取締役/ 元 東京大学医学部 小児外科学 教授 認定 NPO 法人ゴールドリボン・ネットワーク 理事長/ 元 アメリカンファミリー生命保険会社 (現 アフラック生命) 会長
松井 秀文	親/当会九州北支部 幹事 親/当会福井支部 代表幹事 親/当会関西支部 代表幹事/ NPO 法人日本クリニクラウン協会 相談役
張 光陽	親/当会会員
坪田 起久恵	当会会員
森下 さふみ	常務理事/当会事務局長
田中 徹	親/当会会員
井上 敏	当会会員
石川 幹雄	常務理事/当会事務局長
監 事	
三川 勝夫	親/三川会計事務所 代表
評 議 員	
河 敬世	大阪母子医療センター 顧問
深澤 重幸	親/コトブキシーティング株式会社 代表取締役会長
西田 知佳子	NPO 法人ハビネスト 代表 ソーシャルワーカー
平野 朋美	社会福祉法人桜楓会 医療型障害児入所施設カリヨンの杜連携室 ソーシャルワーカー
幸島 静枝	親/当会会員
稲田 浩子	社会福祉法人ゆうかり学園ゆうかり医療療育センター小児科 部長
鈴木 中人	親/当会東海支部 代表幹事
隈部 俊宏	北里大学医学部 脳神経外科 主任教授
本橋 由紀	株式会社毎日新聞社 平塚通信部 記者
舩本 大輔	小児がん経験者
丸山 謙一郎	小児がん経験者
療養援助委員会	
前田 美穂	日本医科大学付属病院 小児科 名誉教授
黒田 達夫	慶応義塾大学 医学部 小児外科 教授
柳澤 隆昭	東京慈恵会医科大学附属病院 脳神経外科 教授
小澤 美和	聖路加国際病院 小児科 医長
松本 公一	国立成育医療研究センター 小児がんセンター長
川井 章	国立がん研究センター中央病院 希少がんセンター長/ 骨軟部腫瘍・リハビリテーション科長
康 勝好	埼玉県立小児医療センター 血液腫瘍科 部長兼科長

調査研究委員会

橋都 浩平	当会理事
細谷 亮太	当会副理事長/当会嘱託医
星 順隆	元 東京慈恵会医科大学附属病院 輸血部
上別府 圭子	一般社団法人子どもと家族の QOL 研究センター 代表理事
増子 孝徳	当会副理事長
山下 公輔	当会理事長

治療研究委員会

山下 公輔	当会理事長
黒田 達夫	慶応義塾大学 医学部 小児外科 教授
小原 明	東京工科大学 医療保健学部 看護学科 特任教授
小澤 美和	聖路加国際病院 小児科 医長
陳 基明	さくら耳鼻科小児科医院 副院長
菱木 知郎	千葉大学大学院医学研究院 小児外科学 教授
丸 光恵	兵庫県立大学 看護学部 教授
〈専門委員〉	
野崎 美和子	獨協医科大学 特任教授/ 獨協医科大学埼玉医療センター 放射線治療センター長
逸見 仁道	アズサイエンス株式会社 小田原営業所
中澤 温子	埼玉県立小児医療センター臨床研究部 部長

小児がん経験者・がん遺児奨学金制度選考委員会

関谷 亜矢子	元 日本テレビアナウンサー
大賀 正一	日本小児血液・がん学会 理事長
松井 秀文	当会理事
増子 孝徳	当会副理事長
沢辺 隆雄	産経新聞 論説副委員長

SMS キャンプ委員会

稲田 浩子	当会評議員
高木 正稔	東京医科歯科大学 発生発達病態学分野・小児科 准教授
飯田 宏美	さいわいこどもクリニック 在宅診療部
渡邊 輝子	済生会横浜市東部病院 看護部長
本橋 由紀	当会評議員

富士山キャンプ委員会

別所 文雄	日本医療科学大学 保健医療学部 医療基礎教育科/ 杏林大学医学部付属病院 小児科
小澤 美和	聖路加国際病院 小児科 医長
安野 啓一郎	長崎県立こども医療福祉センター
高土 陽一郎	当会ボランティア

名誉顧問

柳田 邦男	作家
-------	----



会の歴史

(年度)	
1962	設立趣意書作成
1966	NHKカメラリポートで紹介
1967	「がんの子供を助ける親の会」準備会
1968	2.25 「親の会」設立総会 10.31 「財団法人　がんの子供を守る会」として設立許可 11.18 治療研究委員会発足 12.27 緊急医療費援助開始、第1号患者2名に援助金
1969	小児がん全国登録開始
1970	関西支部設立総会 小児がん公費負担について厚生大臣に陳情
1971	陳情により、小児がん治療費の公費負担が実現
1972	九州支部設立総会 北海道支部設立総会 療養費援助を一般と特別に区分し援助開始。特別療養費審査会発足
1973	映画企画委員会発足 専任ケースワーカー設置
1974	48年度小児がん映画完成公開 静岡支部設立総会 全国登録委員会発足
1975	愛知支部設立総会 49年度小児がん映画完成公開 埼玉支部設立総会 パンフレット「こどものがん」刊行
1976	特定公益増進法人の認定
1978	本会に嘱託医を設置 創立10周年記念講演と映画の会
1979	長野支部設立総会 創立10周年記念・国際児童年記念小児がん国際シンポジウム
1981	新潟支部設立総会
1984	日本小児がん研究会発足
1985	第1回日本小児がん研究会（東京）（平成3年以降「日本小児がん学会」）
1986	竹中相談役・顧問に藍綬褒章
1989	創立20周年記念・第2回小児がん国際シンポジウム
1991	小冊子「がんとなたかう子とともに」刊行 宮城支部設立総会
1993	愛媛支部設立総会 小児がん経験者の会「フェロー・トゥモロー（F.T）」結成
1994	小冊子「子どものがん」、疾病別リーフレット刊行
1995	宿泊施設「あかつきハウス」開設 岡山支部設立総会
1996	東京支部HOPE設立総会 学習ボランティア研修会開始（モデル事業）
1997	国際小児がん親の会連盟（ICCCPO）加入
1998	創立30周年記念第30回SIOP国際小児がん学会親の会会議
1999	九州支部、北・西・南の3支部に分割 清瀬小児病院の敷地内にある「たけのこハウス」、東京都中央区にある「あかしハウス」を東京都衛生局より委託（2002年度まで受託）
2000	「小児がん患児とその家族の支援に関するガイドライン」刊行 岩田理事長に藍綬褒章
2001	「アフラックペアレンツハウス亀戸」が完成、事務所移転

(年度)	
2002	「がんの子どもの教育支援に関するガイドライン」刊行 愛知支部が東海支部となる 広島支部設立総会
2003	九州南支部が熊本支部となる 鹿児島支部設立総会 埼玉支部と東京支部HOPEが合併　関東支部となる
2004	福井支部設立総会 香川支部設立総会 沖縄支部設立総会 「アフラックペアレンツハウス浅草橋」が完成、亀戸より事務所移転
2006	小児がん経験者の支援と社会への啓発を目的としたゴールドリボン基金を設立 「小児がん経験者のためのガイドライン～よりよい生活をめざして～」刊行
2007	ゴールドリボンウォーキング2007開催（東京） 富山支部設立総会
2008	創立40周年記念事業がんの子どもと家族を支援する公開シンポジウム（千葉） 第1回小児がん経験者自立支援助成金
2009	「アフラックペアレンツハウス大阪」が完成／大阪事務所開設 高知支部設立総会
2010	「この子のためにできること　緩和ケアのガイドライン」刊行 福島支部設立総会
2011	東日本大震災緊急療養援助実施
2012	公益財団法人移行認定 鹿児島支部が鹿児島・宮崎支部となる
2013	「小児がん経験者及びがん遺児に対する奨学金給付事業」の認定 岩田最高相談役及び西村顧問に当会より特別功労賞を授与
2014	奨学金事業「アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学金制度」を開始 厚生労働省に「難病及び小児慢性特定疾病対策・小児がん対策の充足を求める請願書」を提出 文部科学省に「小児がん患児が切れ目なく教育を受けることができる教育整備の充足を求める請願書」を提出 「小児がん経験者のためのハンドブック」刊行 「小児がんの子どものきょうだいのきもち」刊行 鹿児島・宮崎支部が宮崎支部となる
2015	第29回日本医学会総会2015関西　疾患啓発イベント「分かちあう気持ち、支えあう笑顔 小児がん医療の姿～いま　そして　これから～」開催 アフラックペアレンツハウス浅草橋10周年記念イベント開催 「小児がん　こどもでんわ相談室」開設
2016	当会、一般社団法人日本小児血液・がん学会及び特定非営利活動法人日本小児がん看護学会の 連名で厚生労働省に対し「小児がん対策に関する要望書」を提出 「小児がんの子どものきょうだいたち」刊行
2017	アフラックペアレンツハウス浅草橋及び亀戸　業務委託から直営による運営を開始 アフラックペアレンツハウス浅草橋及び亀戸　施設の拡充を目的とする改修・改装工事の実施 アフラックペアレンツハウス浅草橋　リニューアルオープン
2018	アフラックペアレンツハウス亀戸リニューアルオープン 創立50周年記念式典開催（東京）　創立50周年記念誌発行 国際小児がんの会（CCI）／第50回国際小児がん学会（SIOP）京都開催（運営参画）
2019	アフラックペアレンツハウス大阪　開設10周年（2020年1月） 第3期がん対策推進基本計画推進にむけた小児がん患者・家族からの要望（要望書）提出 小児慢性特定疾病対策見直しにむけた小児がん患者・家族からの要望（要望書）提出 接種済みワクチン再接種費用助成の要望について（要望書）提出
2020	コロナ禍により年次大会をWeb開催／テーマ「小児がんの移行期医療」 アンケート「新型コロナウイルス感染症による小児がん患者・家族の治療・生活への影響について」実施 小児がん対策の更なる充足についての要望書（厚生労働省）提出 切れ目なく教育を受けることができる教育環境の充足を求める要望書（文部科学省）提出
2021	アフラックペアレンツハウス亀戸開設20周年（2021年2月） 「小児がん経験者の健康管理サイト」開設



2021 年度収支報告

(2021年4月1日～
2022年3月31日)

2021 年度収支報告



正味財産増減計算書内訳表

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	合 計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
財産運用益	5,571,030			5,571,030
普通預金利息	3,586			3,586
定期預金利息	7,208			7,208
投資有価証券利息	5,560,236			5,560,236
受取寄付金	262,791,595		48,950,345	311,741,940
特定寄付金	4,885,960			4,885,960
一般寄付金	48,950,346		48,950,345	97,900,691
受取寄付金振替額	208,955,289			208,955,289
受取協賛金	1,500,000			1,500,000
ゴールドリボン協賛金収入	1,500,000			1,500,000
受取補助金等	6,110,662			6,110,662
受取補助金等振替額	6,110,662			6,110,662
受託料	1,329,545			1,329,545
調査研究受託料	990,000			990,000
相談支援受託料	339,545			339,545
受取利用料	1,878,800			1,878,800
施設利用料	1,633,400			1,633,400
リネン利用料	245,400			245,400
雑収益	709,094	1,800,000		2,509,094
雑収益	709,094	1,800,000		2,509,094
経常収益計	279,890,726	1,800,000	48,950,345	330,641,071
(2) 経常費用				
事業費	305,013,278	843,734		305,857,012
人件費	88,041,499			88,041,499
法定福利費	9,834,840			9,834,840
給与	74,886,730			74,886,730
福利厚生費	77,229			77,229
退職給付費用	3,242,700			3,242,700
助成費	29,457,829			29,457,829
療養助成費	15,807,829			15,807,829
治療研究助成費	7,650,000			7,650,000
調査研究助成費	6,000,000			6,000,000
活動費	64,370,995	591,591		64,962,586
会議費	18,420			18,420
旅費交通費	967,476			967,476
通信運搬費	6,300,729			6,300,729
消耗品費	3,116,186			3,116,186
修繕費	4,707,930			4,707,930
印刷製本費	2,174,062			2,174,062
光熱水料費	9,258,410			9,258,410
保険料	968,719	1,401		970,120
諸謝金	1,645,321			1,645,321
業務委託費	1,121,868			1,121,868
広報費	5,336,544			5,336,544
支援費	989,240			989,240
図書資料費	468,766			468,766
保健衛生費	276,164			276,164
ゴールドリボン制作費	1,500,066			1,500,066
宿泊施設運営費	641,868			641,868
租税公課	3,809,000	70,700		3,879,700
リネン賃借料	620,136			620,136
会場費	1,765,000			1,765,000
雑費	2,041,136	302,530		2,343,666
保守料	6,720,184	216,960		6,937,144
リース料	1,964,150			1,964,150
植栽管理費	212,035			212,035
借地料	845,280			845,280
支払報酬	110,000			110,000
衛生管理費	4,242,884			4,242,884
消耗什器備品費	2,549,421			2,549,421
減価償却費	29,362,955	252,143		29,615,098
建物減価償却額	26,891,643	100,247		26,991,890
建物附属設備減価償却額	2,027,440	97,001		2,124,441
ソフトウェア減価償却額	115,200			115,200

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	合 計
什器備品減価償却額	250,279	54,895		305,174
一括償却資産減価償却額	78,393			78,393
奨学金給付費	93,780,000			93,780,000
奨学金給付費	93,780,000			93,780,000
管理費			28,197,663	28,197,663
人件費			18,837,140	18,837,140
給与			14,510,410	14,510,410
法定福利費			2,126,680	2,126,680
福利厚生費			38,250	38,250
退職給付費用			2,161,800	2,161,800
活動費			8,232,199	8,232,199
会議費			8,913	8,913
旅費交通費			53,018	53,018
通信運搬費			553,219	553,219
消耗品費			48,555	48,555
修繕費			117,700	117,700
印刷製本費			749,768	749,768
図書資料費			50,811	50,811
保守料			410,278	410,278
リース料			2,736,360	2,736,360
支払報酬			2,585,000	2,585,000
租税公課			8,550	8,550
消耗什器備品費			47,040	47,040
雑費			862,987	862,987
減価償却費			1,128,324	1,128,324
ソフトウェア減価償却額			263,785	263,785
什器備品減価償却額			864,539	864,539
経常費用計	305,013,278	843,734	28,197,663	334,054,675
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 25,122,552	956,266	20,752,682	△ 3,413,604
評価損益等計	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 25,122,552	956,266	20,752,682	△ 3,413,604
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
固定資産除却損	4	0	0	4
経常外費用計	4	0	0	4
当期経常外増減額	△ 4	0	0	△ 4
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△ 25,122,556	956,266	20,752,682	△ 3,413,608
他会計振替額	439,248	△ 439,248		0
税引前当期一般正味財産増減額				
法人税・住民税及び事業税		△ 190,000		△ 190,000
当期一般正味財産増減額	△ 24,683,308	327,018	20,752,682	△ 3,603,608
一般正味財産期首残高	441,225,201	△ 755,203	159,746,377	600,216,375
一般正味財産期末残高	416,541,893	△ 428,185	180,499,059	596,612,767
II 指定正味財産増減の部				
受取補助金等	8,594,407			8,594,407
受取助成金	8,594,407			8,594,407
助成金	8,594,407			8,594,407
受取寄付金	173,323,556			173,323,556
指定寄付金	173,323,556			173,323,556
三重ファミリールーム指定寄付金	2,033,798			2,033,798
施設運営指定寄付金	82,511,449			82,511,449
奨学金指定寄付金	88,778,309			88,778,309
特定資産評価損益	△ 3,729,523			△ 3,729,523
一般正味財産への振替額	△ 215,065,951			△ 215,065,951
指定寄付金	△ 209,036,056			△ 209,036,056
受取助成金等	△ 6,029,895			△ 6,029,895
当期指定正味財産増減額	△ 29,418,465			△ 29,418,465
指定正味財産期首残高	2,055,304,519			2,055,304,519
指定正味財産期末残高	2,025,886,054			2,025,886,054
III 正味財産期末残高	2,442,427,947	△ 428,185	180,499,059	2,622,498,821



正味財産増減計算書内訳表

(単位：円)

科 目	合 計	一般会計	AFLAC ベアレンツハウス 特別会計	三重ファミリー ルーム 特別会計	小児がん経験者・ がん遺児奨学金特 別会計	休眠預金等 活用助成事業 特別会計
I 一般正味財産増減の部						
1. 経常増減の部						
(1) 経常収益						
財産運用益	5,571,030	5,570,040	466	194	330	0
普通預金利息	3,586	2,596	466	194	330	0
定期預金利息	7,208	7,208	0	0	0	0
投資有価証券利息	5,560,236	5,560,236	0	0	0	0
受取寄付金	311,741,940	102,786,651	118,143,182	2,033,798	88,778,309	0
特定寄付金	4,885,960	4,885,960	0	0	0	0
一般寄付金	97,900,691	97,900,691	0	0	0	0
受取寄付金振替額	208,955,289	0	118,143,182	2,033,798	88,778,309	0
受取協賛金	1,500,000	1,500,000	0	0	0	0
ゴールドリボン協賛金収入	1,500,000	1,500,000	0	0	0	0
受取補助金等	6,110,662	1,323,807	0	0	0	4,786,855
受取補助金等振替額	6,110,662	1,323,807	0	0	0	4,786,855
受託料	1,329,545	1,329,545	0	0	0	0
調査研究受託料	990,000	990,000	0	0	0	0
相談支援受託料	339,545	339,545	0	0	0	0
受取利用料	1,878,800	74,000	1,672,900	131,900	0	0
施設利用料	1,633,400	74,000	1,427,500	131,900	0	0
リネン利用料	245,400	0	245,400	0	0	0
雑収益	2,509,094	2,304,384	204,710	0	0	0
雑収益	2,509,094	2,304,384	204,710	0	0	0
経常収益計	330,641,071	114,888,427	120,021,258	2,165,892	88,778,639	4,786,855
(2) 経常費用						
事業費	305,857,012	77,519,089	120,021,258	3,524,846	100,004,964	4,786,855
人件費	88,041,499	28,783,153	52,978,346	0	4,000,000	2,280,000
法定福利費	9,834,840	3,498,343	5,836,497	0	500,000	0
給与	74,886,730	22,023,110	47,083,620	0	3,500,000	2,280,000
福利厚生費	77,229	19,000	58,229	0	0	0
退職給付費用	3,242,700	3,242,700	0	0	0	0
助成費	29,457,829	29,457,829	0	0	0	0
療養助成費	15,807,829	15,807,829	0	0	0	0
治療研究助成費	7,650,000	7,650,000	0	0	0	0
調査研究助成費	6,000,000	6,000,000	0	0	0	0
活動費	64,962,586	19,025,964	39,477,458	1,808,112	2,224,964	2,426,088
会議費	18,420	11,712	0	0	6,708	0
旅費交通費	967,476	732,723	123,213	109,200	2,340	0
通信運搬費	6,300,729	3,510,227	2,089,027	55,264	620,035	26,176
消耗品費	3,116,186	1,810,755	1,241,443	29,014	34,974	0
修繕費	4,707,930	373,000	4,326,410	8,520	0	0
印刷製本費	2,174,062	1,135,103	274,780	0	591,523	172,656
光熱水料費	9,258,410	0	9,019,461	238,949	0	0
保険料	970,120	62,251	894,869	13,000	0	0
諸謝金	1,645,321	1,556,232	0	0	22,272	66,817
業務委託費	1,121,868	0	996,600	125,268	0	0
広報費	5,336,544	3,356,615	0	0	0	1,979,929
支援費	989,240	989,240	0	0	0	0
図書資料費	468,766	31,578	437,188	0	0	0
保健衛生費	276,164	1,774	224,390	50,000	0	0
ゴールドリボン制作費	1,500,066	1,500,066	0	0	0	0
宿泊施設運営費	641,868	641,868	0	0	0	0
租税公課	3,879,700	72,400	3,807,300	0	0	0
リネン賃借料	620,136	0	620,136	0	0	0
会場費	1,765,000	1,765,000	0	0	0	0
雑費	2,343,666	1,131,574	228,188	19,302	947,112	17,490
保守料	6,937,144	216,960	6,496,304	60,860	0	163,020
リース料	1,964,150	40,776	1,923,374	0	0	0
植栽管理費	212,035	0	212,035	0	0	0
借地料	845,280	0	0	845,280	0	0
支払報酬	110,000	0	110,000	0	0	0
衛生管理費	4,242,884	0	4,140,419	102,465	0	0
消耗什器備品費	2,549,421	86,110	2,312,321	150,990	0	0
減価償却費	29,615,098	252,143	27,565,454	1,716,734	0	80,767
建物減価償却額	26,991,890	100,247	25,174,909	1,716,734	0	0

科 目	合 計	一般会計	AFLAC ベアレンツハウス 特別会計	三重ファミリー ルーム 特別会計	小児がん経験者・ がん遺児奨学金特 別会計	休眠預金等 活用助成事業 特別会計
建物附属設備減価償却額	2,124,441	97,001	2,027,440	0	0	0
ソフトウェア減価償却額	115,200	0	115,200	0	0	0
什器備品減価償却額	305,174	54,895	214,172	0	0	36,107
一括償却資産減価償却費	78,393	0	33,733	0	0	44,660
奨学金給付費	93,780,000	0	0	0	93,780,000	0
奨学金給付費	93,780,000	0	0	0	93,780,000	0
管理費	28,197,663	28,197,663	0	0	0	0
人件費	18,837,140	18,837,140	0	0	0	0
給与	14,510,410	14,510,410	0	0	0	0
法定福利費	2,126,680	2,126,680	0	0	0	0
福利厚生費	38,250	38,250	0	0	0	0
退職給付費用	2,161,800	2,161,800	0	0	0	0
活動費	8,232,199	8,232,199	0	0	0	0
会議費	8,913	8,913	0	0	0	0
旅費交通費	53,018	53,018	0	0	0	0
通信運搬費	553,219	553,219	0	0	0	0
消耗品費	48,555	48,555	0	0	0	0
修繕費	117,700	117,700	0	0	0	0
印刷製本費	749,768	749,768	0	0	0	0
図書資料費	50,811	50,811	0	0	0	0
保守料	410,278	410,278	0	0	0	0
リース料	2,736,360	2,736,360	0	0	0	0
支払報酬	2,585,000	2,585,000	0	0	0	0
租税公課	8,550	8,550	0	0	0	0
消耗什器備品費	47,040	47,040	0	0	0	0
雑費	862,987	862,987	0	0	0	0
減価償却費	1,128,324	1,128,324	0	0	0	0
ソフトウェア減価償却額	263,785	263,785	0	0	0	0
什器備品減価償却額	864,539	864,539	0	0	0	0
経常費用計	334,054,675	105,716,752	120,021,258	3,524,846	100,004,964	4,786,855
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 3,413,604	9,171,675	0	△ 1,358,954	△ 11,226,325	0
評価損益等計	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 3,413,604	9,171,675	0	△ 1,358,954	△ 11,226,325	0
2. 経常外増減の部						
(1) 経常外収益						
経常外収益計	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用						
固定資産除却損	4	0	4	0	0	0
経常外費用計	4	0	4	0	0	0
当期経常外増減額	△ 4	0	△ 4	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△ 3,413,608	9,171,675	△ 4	△ 1,358,954	△ 11,226,325	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 3,413,608	9,171,675	△ 4	△ 1,358,954	△ 11,226,325	0
法人税・住民税及び事業税	190,000	190,000	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 3,603,608	8,981,675	△ 4	△ 1,358,954	△ 11,226,325	0
一般正味財産期首残高	600,216,375	609,406,589	77,156,266	12,739,281	△ 99,085,761	0
一般正味財産期末残高	596,612,767	618,388,264	77,156,262	11,380,327	△ 110,312,086	0
II 指定正味財産増減の部						
受取補助金等	8,594,407	1,323,807	0	0	0	7,270,600
受取助成金	8,594,407	1,323,807	0	0	0	7,270,600
助成金	8,594,407	1,323,807	0	0	0	7,270,600
受取寄付金	173,323,556	0	82,511,449	2,033,798	88,778,309	0
指定寄付金	173,323,556	0	82,511,449	2,033,798	88,778,309	0
三重ファミリールーム指定寄付金	2,033,798	0	0	2,033,798	0	0
施設運営指定寄付金	82,511,449	0	82,511,449	0	0	0
奨学金指定寄付金	88,778,309	0	0	0	88,778,309	0
特定資産評価損益	△ 3,729,523	△ 3,729,523	0	0	0	0
一般正味財産への振替額	△ 215,065,951	△ 1,323,807	△ 118,143,182	△ 2,033,798	△ 88,778,309	△ 4,786,855
指定寄付金	△ 209,036,056	0	△ 118,143,182	△ 2,033,798	△ 88,778,309	△ 80,767
受取助成金等	△ 6,029,895	△ 1,323,807	0	0	0	△ 4,706,088
当期指定正味財産増減額	△ 29,418,465	3,729,523	△ 35,631,733	0	0	2,483,745
指定正味財産期首残高	2,055,304,519	114,767,150	1,709,396,055	18,548,842	212,089,255	503,217
指定正味財産期末残高	2,025,886,054	118,496,673	1,673,764,322	18,548,842	212,089,255	2,986,962
III 正味財産期末残高	2,622,498,821	736,884,937	1,750,920,584	29,929,169	101,777,169	2,986,962



2021年度（2021年4月1日～2022年3月31日）の事業概況

1 療養援助事業

療養援助事業は、患児が等しく医療を受けられることを願い、療養に伴う経済的負担が軽減されることを目的として、創設時から今日まで継続している事業です。創設当時、高額な小児がんの治療費のほとんどは自己負担でしたが、現在は一部を除き公費負担となっています。しかし、治療期間が長期にわたること、保護者の付添いによる二重生活やきょうだいの保育などさまざまな負担が生じている状況に変わりはありません。当事業は、経済的な援助を主軸にしつつ、現在では、闘病中のご家族が当会や病院のソーシャルワーカー、さまざまな社会制度などの資源とつながるための入り口としての役割も果たしています。当事業の対象者、対象事項等は以下の通りです。

対象者 18歳未満で小児がんを発症し、申請時20歳未満の抗腫瘍治療中の患児の家族（一疾病で一回限りの援助）で、以下の条件に該当する場合

- 1) 給与所得者：前年の課税所得（源泉徴収票の「給与所得控除後の金額」から、「所得控除後の金額」を引いた額）が400万円以下の場合
- 2) 自営業者：前年の確定申告書Bの「課税される所得金額（26）」（専従者がいる場合は「課税される所得金額（26）」に「専従者給与（控除）額の合計額（50）」及び「青色申告特別控除額（51）」を加算した金額）が400万円以下の場合

援助対象事項 1) 抗腫瘍治療中で入院療養に必要な対応として①～③のいずれかに該当する場合

- ①以下の治療を要する場合
移植の実施／転移もしくは再発がある又は有効な治療法がない場合／特殊治療が必要
- ②治療上のやむを得ない理由から治療施設と自宅が片道150Km以上離れている遠隔地で治療を要した場合
- ③未就学児のきょうだいがいる場合

2) 抗腫瘍治療中で入院・外来を問わず課税所得100万円（生計を一にする親族に所得がある場合は合算）以下の世帯（生活保護受給世帯を含む）

援助対象期間 申請書受理日から遡って3ヶ月間

援助の決定 療養援助委員会の審査会（年5回開催）にて、援助内容・金額を決定する。

■本年度決定実績

2021年度	
決定実績	170件
援助決定総額 (1件当たり平均)	¥15,807,829円 (92,987円/件)

本事業は、大原小児がん基金、日本労働組合総連合会「愛のカンパ」、有限会社吉半からの寄付をいただきました。

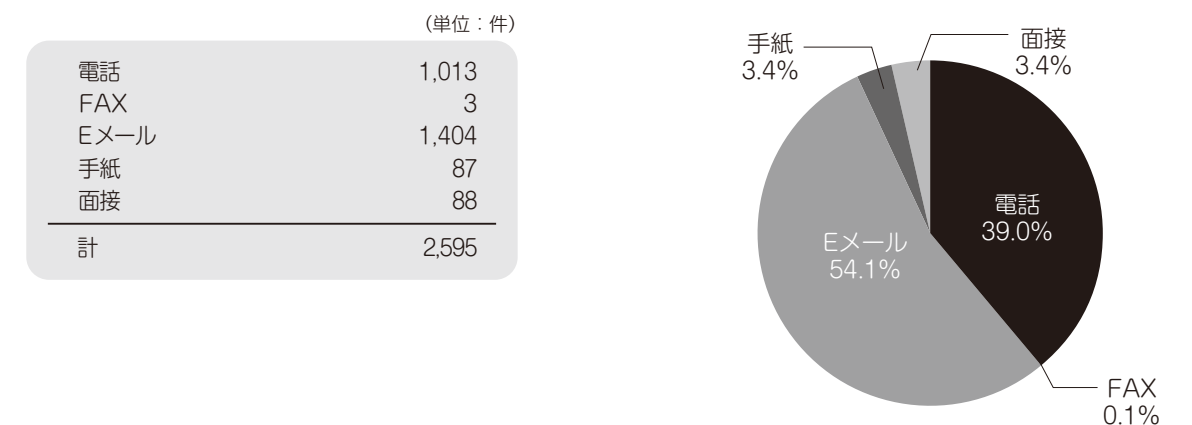
2 相談事業及び関連事業

(1) 小児がん相談事業

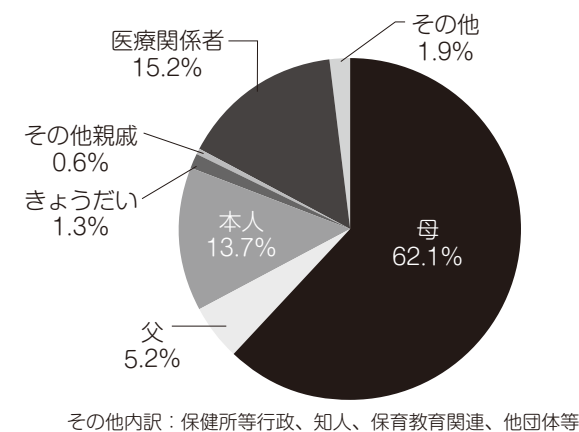
小児がん患児・家族は、数ヵ月から年単位の長期にわたる入院生活を強いられることが多く、それまでの家庭生活や社会生活は一変します。加えて、告知をどうするか、きょうだいのケアをどうするか、療養にともなう経済的負担にどう対処するか、学校をどうするかなど、家族は多くの問題に直面することとなります。小児がんの強力な治療は子どもの心身への負担も大きく、治療が終了した後も長期的な影響として身体的・精神的不調が残ることも稀ではありません。

このように多くの不安や悩みを抱える患児・家族に対して、治療中はもちろん、治療を終えた後も、また子どもが亡くなった後も、継続的なサポートが必要とされています。当会では、1973年に専任のソーシャルワーカーによる相談事業を開始し、以来50年近くにわたり相談支援を行っています。2021年度は、東京・大阪両事務所に常駐するソーシャルワーカーが計5名体制で相談に応じました。昨年から新型コロナウイルスの影響で面接でのご相談は少なくなりましたが、電話やメールでの相談が多く寄せられました。相談内容としては、コロナ禍での療養生活や経済的な不安、また亡くされたご家族のグリーフを含めた療養生活についてのご相談がみられました。治療後の晩期合併症、長期フォローアップ、高校生の教育、自立や就労についてのご相談もかわらずありました。（詳細は下記をご参照ください）。

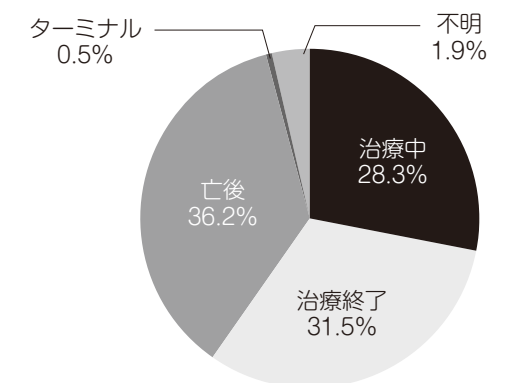
1. 相談方法



2. 相談者属性

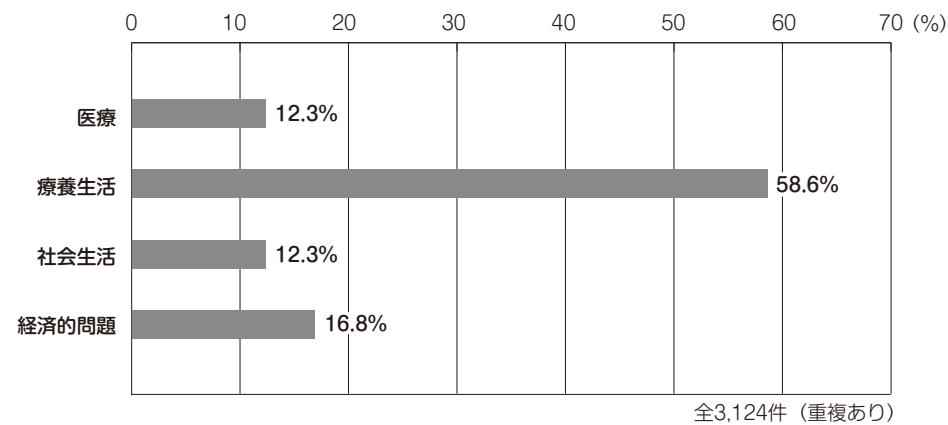


3. 相談時期





4. 相談内容



※上記の各集計分類に含まれる内容は、以下の通りです。

医療：心理社会的、治療、晚期合併症、医療者との関係、セカンドオピニオン等

療養生活：心理社会的、グリーフ、近況、親の会・経験者の会について、
家族・きょうだいについて、宿泊等

社会生活：心理社会的、自立、教育、就労、保育等

経済的問題：療養援助事業、社会制度、心理社会的、保険等

(2) 小児がん こどもでんわ相談室

2015年8月より、「小児がん こどもでんわ相談室」（フリーダイヤル：0120－307－164）を開設しました。平日10時から17時に小児がんについての悩みや不安、疑問などに、ソーシャルワーカーがお応えしています。「小児がん こどもでんわ相談室」の周知のために、㈱スタイリングライフホールディングスと当会が受賞した第3回（2017年度）「企業ボランティア・アワード」（東京都社会福祉協議会東京ボランティア・市民活動センター主催）の奨励金によって作成したチラシやカードを小児がん拠点病院、小児がん診療病院、保健所等に配置していただいています。

(3) 相談会の開催

患児・家族が個別に専門医に相談できる機会として、下記の個別相談会を開催しました。

■個別相談会

年月日	内 容	相談医	会 場
2021年9月28日	小児がん全般 (グリーフなど)	細谷 亮太 聖路加国際病院 小児科/当会嘱託医	東京（本部）
2022年2月25日	脳腫瘍	柳澤 隆昭 東京慈恵会医科大学病院 脳神経外科	東京（本部）

(4) 子どもを亡くした家族の会

①子どもを亡くした家族の交流会

子どもを亡くした家族の交流やわかちあいの場の提供を目的として、ペアレンツハウス亀戸（東京）、ペアレンツハウス大阪にて交流会を年6回開催しました。会は、母親の会、父親の会、家族の会、祖父母の会、ひとりっ子を亡くされた親の会、闘病期間の短かった家族、15歳～19歳のお子さまを亡くされたご家族というテーマを設け、各回とも、当会ソーシャルワーカー司会のもと、参加者が体験や近況などを話しあい交流を深めました。2021年度は新型コロナウイルスの緊急事態宣言時及び高警戒レベル時は交流会を中止し、開催時は感染症対策を講じた会場設営をおこない、実施いたしました。

②短期集中サポートグループ

子どもを亡くされたことに関する様々な感情の表出や共感の機会の提供を目的として、子どもを亡くされて1年未満の母親を対象にサポートグループを開催しています。

2021年度は、2021年10月15日～11月19日の期間に東京、亀戸事務所にて開催し、4名が参加しました。グループの開催前に参加者と個別の事前面接を行ったうえで、ソーシャルワーカー同席のもと、週に1回、原則90分の集まりを計6回持ち、各回とも異なるテーマのもとに話し合いを行いました。グループ終了後には再び参加者と個別に事後面接を行いました。

〈サポートグループの同窓会〉

サポートグループが終了した後には、参加者へのフォローアップの目的もかねて、半年後及び1年後の2回にわたり同窓会と称した集まりを持っています。

2020年度の秋のグループの半年後の同窓会を2021年11月9日に3名の参加で浅草橋事務所にて開催しました。

(5) 小児がん経験者への支援活動

①小児がん経験者の会リーダーの集い

小児がん経験者の会のリーダー及びこれから会を立ち上げようとしている小児がん経験者たちが、会を運営していく上での悩みや課題を一緒に考え共有していくことを目的とし、2003年より「小児がん経験者の会リーダーの集い」を開催しています。

2021年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、7月4日（日）オンラインにて開催し、6団体9名が参加しました。今年も小児がん経験者の会のリーダーだけではなく、小児がん経験者で会のメンバーとして活動したい方、これから会を立ち上げたい方にもご参加いただき、コロナ禍での活動について各会での工夫や苦労等を分かち合う時間となりました。

②活動費の支援

小児がん経験者の会に対して活動費の支援を行っています。2021年度は3団体に計58,000円の活動費の支援を行いました。



③ Fellow Tomorrow (フェロー・トゥモロー) / WISHへの支援

1993年に発足した小児がん経験者の会「Fellow Tomorrow (フェロー・トゥモロー)」の運営支援を行いました。本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月12日にオンラインでの講演会と交流会にソーシャルワーカーが後方支援を行いました。また、2000年に発足した東海地域の小児がん経験者の会「WISH」についても、ソーシャルワーカーが運営支援を行っています。

④ スマートムンストーンキャンプ

スマートムンストーンキャンプ(SMS)は告知をされて小児がん向き合ってきた子どもたちを対象にし、1998年に3人の医師、看護師などからなる運営スタッフによって始められたキャンプです。「病気について説明を受けている子どもたちが多数派になるまで見守る」という初期の目的は達成されましたが、これからもこのキャンプで築かれた子どもたちのつながりを深くするため、そして新しい仲間を迎えるために、これまでのスマートムンストーンキャンプを礎として2011年より小児がん経験者が主体となって運営するキャンプを開催することになり、2012年度からは公益財団法人がんの子どもを守る会の事業として、ボランティアを中心とした実行運営グループが企画運営をしながら、新たなスタートを切っています。

2021年度は昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響で8月22日にオンラインイベントを開催しました。小学3年生から社会人までの小児がん経験者7名、一般ボランティア1名、企画ボランティア8名、ボランティアリーダー(小児がん経験者)5名、スタッフ・事務局6名の計27名が参加しました。なお、本事業は毎日新聞東京社会事業団のご寄付によって運営されています。

協賛：公益財団法人毎日新聞東京社会事業団

(6) 小児がんピアサポーター研修

小児がん患者・家族にとって、同じ問題に直面している仲間(ピア)に寄り添い、ともに考え、支援(サポート)するピアサポーターの存在は、大きな心の支えとなります。一方、同じ経験をしたからこそ同調しすぎてしまうのではないかと、どこまで相談に乗ってもいいのだろうか、という不安の声も聞かれます。そこで小児がん経験者・ご家族(親/きょうだい)38名の方を対象に、2021年10月～2022年2月に月1回2時間、オンラインにてピアサポーター研修を開催し、全5回の研修参加と各研修受講後の課題提出をもって修了証を発行いたしました。

(7) 親の会支援

① 親の会連絡会

小児がん親の会が、会の運営や活動を共有しあうことを目的として年1回の集まりを持ち情報交換等を図る場として、1997年より「全国小児がん親の会連絡会」を開催しています。

2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での開催を見送り、7月18日(日) Zoomを用いたオンラインによる形式で実施し、28団体46名の方に参加いただきました。

② 活動費の支援

全国の病院内や疾病別に発足している小児がん親の会は、子どもが小児がんにかかった親たちが身近に相談できる場所として大変重要です。各会に対して、運営や設立に関する相談に応じるほか、小児がん親の会に対して活動費の支援を行っています。本年度は新型コロナウイルス感染症の影響で活動の制限を余儀なくされていることを鑑み例年の支援金とは別に特別支援金を設け、合計26団体に939,070円の活動費の支援を行いました。

(8) きょうだいの支援

① 富士山にアタック!! 2021

小児がんの子どものきょうだい向けのイベントは少なく、出会いや交流の場が少ないのが現状です。当会では、2001年より毎日新聞社の支援を受け、小児がん患者のきょうだいのための富士山キャンプを行っています。21回目となる2021年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で昨年度同様オンラインで9月23日(木・祝)に実施しました。今回は4名の初参加者を含む北海道から九州まで全国から14名の参加がありました。イベントは、画用紙を使っての自己紹介からスタートし、各自画用紙に、近況を短歌・俳句・川柳にして発表しました。個性的な短歌・俳句・川柳に納得感や笑いがあり楽しいひとときでした。またチーム対抗で、万歩計を手で振って何歩になるか競争をしたり、「みんなで描こう 一筆お絵かき」と題し、チームごとにZoomのホワイトボードを活用したレクリエーションをしました。イベント後のお話し会では各自の近況や、学校の友達とは話せない話題など話が尽きず大切な場を共有しました。富士山にアタック!!2021は、ご協賛社はじめ、他多数の関係者の協力により無事終えることができました。心より感謝申し上げます。

協賛：あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、毎日新聞東京社会事業団
協力(物品提供)：株式会社ガイア

② きょうだいの交流会 てんとうむし

当会では、きょうだい支援の一環として、富士山にアタック!!参加者の「富士山だけじゃなくもう少し会いたいね」「旅行じゃなくて気軽に参加できたらいいな」という声から、2011年より小児がんのきょうだいの交流会と親睦会を開催しています。開催にあたっては、小児がんの子どものきょうだいたちにより「てんとうむし」と名付けられました。これはテントウムシ(天道虫)が日本では太陽に向かって飛ぶといわれていること、また、外国では『子どもの守り神』といわれていることから、「子どもたちが守られ、その子の太陽に向かい自由に飛ぶ」という意味を含めています。同じ小児がんの子どものきょうだい同士が、こころにとめていた想いを語り合い、分かち合い、同じ立場の人がいるという繋がりや安心感をもてる場として、3月13日に新型コロナウイルスの感染拡大防止のためオンラインにて交流会を開催しました。

(9) 「小児がん経験者の長期フォローアップ受診促進のための啓発活動」事業

一般財団法人日本民間公益活動連携機構(JANPIA)の助成による「小児がん経験者の長期フォローアップ受診促進のための啓発活動」事業(2020年度～2022年度)も2年目に入り、具体的な活動を実施しました。本事業は小児がん医療の進歩とともに、小児がん経験者の長期フォローアップ、移行期医療、健康管理などについてのご相談が増えており、特に治療サマリーを持たず、主治医との連絡が途絶えてしまっているフォローアップロス的小児がん経験者の存在について対応する必要性を強く感じて開始した事業です。今年度は、小児・AYA世代がん経験者が自分自身で健康管理を行う際に参考となることを目的に広報サイト小児AYA世代がん経験者「みんなの健康管理サイト」オープンしました。また、小児がん経験者が実際に医療機関へ受診する際の受け皿の整備を行いました。その結果、小児がん経験者から自身の健康管理に不安を感じ、相談してくる事例もでてきており、今後も継続して小児がん経験者の健康管理促進に向け、取り組んで参ります。

次頁表の有識者等の方々と構成されたアドバイザリーボードの協力を得ています。



〈アドバイザーリーボード〉

氏名（敬称略：順不同）	所 属
松本 公一	国立成育医療研究センター小児がんセンター
力石 健	宮城県立こども病院血液腫瘍科
宮地 充	京都府立医科大学附属病院小児科
長谷川 大輔	聖路加国際病院小児科
石田 也寸志	元JCCG長期フォローアップ委員会委員長／愛媛県立中央病院小児医療センター
大園 秀一	JCCG長期フォローアップ委員会委員長 日本小児血液・がん学会 長期フォローアップ・移行期医療検討委員会委員 久留米大学病院小児科
前田 美穂	日本医科大学付属病院小児科／日本歯科大学
舛本 大輔	小児がん経験者の会 WISH 代表、がんの子どもを守る会評議員
菱ヶ江 恵子	小児がん経験者の会 FT 及び QOL＋メンバー

3 治療研究事業

（1）治療研究助成

子どもたちを小児がんのさまざまな脅威から守るため、その予防、早期の適切な診断、治療成績の一層の向上と後遺症のない治癒、トータルサポートによるよりよい療養生活などの実現に寄与する調査研究の促進を目的とし、小児がん経験者に関する研究、小児がんに関するトータルケアの研究、小児がんに関する基礎系・臨床系の研究の3課題で募集いたしました。審査の結果、26件（助成総額 7,650,000 円）を助成いたしました。助成金の一部については清水建設株式会社からのご寄付も活用させていただきました。

〈2021 年度 治療研究助成一覧〉

（助成期間：2021 年 10 月 1 日～ 2022 年 9 月 30 日） * 所属は決定時点

氏名（敬称略：順不同）	所 属	研究名称
青山 貴洋	愛知県がんセンター病院 放射線治療部	遠隔解除機能を搭載した放射線治療用固定システムの開発
梅田 雄嗣	京都大学大学院医学系研究科 発達小児科学	難治性小児悪性腫瘍に対するテモゾロミド併用化学療法の治療効果予測因子としてのMGMT免疫染色の有効性の検討
氏家 悠貴	学校法人岩手医科大学 薬学部臨床薬学講座 情報薬科学分野	Zebrafish を用いた新たな抗腫瘍薬の晩期合併症予測モデルの構築
大植 孝治	兵庫医科大学 小児外科	小児腎腫瘍に対する新規治療法開発のための国際臨床試験
大嶋 宏一	埼玉県立小児医療センター 血液腫瘍科	小児原発性骨髄線維症の発症機序の解明
大杉 夕子	兵庫医科大学病院 血液内科	思春期若年成人世代の血液腫瘍患者への情報提供の在り方と支援に関する研究

氏名（敬称略：順不同）	所 属	研究名称
大曾根 眞也	京都府立医科大学 小児科	急性リンパ性白血病の治療薬デキサメタゾンによって生じる精神系有害事象に関する多施設共同前向き観察研究
河原 康一	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 腫瘍学講座 分子腫瘍学分野	個別化医療を志向した P53 経路を活性化する小児白血病の分子標的薬の開発
黒田 梨絵	金沢大学附属病院 小児科	高リスク群神経芽腫に対する大量 131- I MIBG 治療の確立に向けて
近藤 亨史	北海道大学大学院医学研究院 消化器外科学教室 I	治療抵抗性肝芽腫に対するエビゲノム治療薬による新規治療開発
古賀 友紀	九州大学 大学院医学研究院 周産期・小児医療学講座／病院 小児科	小児ホジキンリンパ腫治療終了後患者に対する調査研究（治療抵抗・再発症例実態調査および治療終了後長期生存における晩期合併症調査）
末永 雄介	千葉県がんセンター研究所 発がん制御研究部	NCYM-GSK3 β 間の相互作用を標的にした神経芽腫治療薬の開発
田畑 阿美	京都大学大学院 医学研究科人間健康科学系専攻	小児脳腫瘍患者の精神・認知機能、協調運動及び適正行動に関する前向き観察研究
高江 正道	聖マリアンナ医科大学 産婦人科学	小児がんサバイバーの妊孕性改善を志向した最適卵巣組織移植部位の探索
田中 祐吉	独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立こども医療センター 臨床研究所	小児腫瘍のグルーブスタディに有用な病理組織分類アトラス・資料の適時リニューアルおよび小児腫瘍病理診断の教育研修活動
塚本 徹雄	近畿大学医学部 免疫学教室	フレンドレトロウイルス感染マウスにおいて白血病発症の土壌となるストレス造血反応の研究
寺下 友佳代	北海道大学病院 小児科	北海道の小児がん患者における遺伝性素因の研究
野口 磨依子	九州がんセンター 小児科	長期療養高校生患者への双方向型オンライン授業の導入
濱田 太立	名古屋市立大学大学院医学研究科 ウイルス学分野	小児急性リンパ性白血病に対するキメラ抗原受容体 T 細胞療法後の次世代シーケンサーを用いた微小残存腫瘍（NGS-MRD）解析による個別化医療の開発
日高 響子	筑波大学附属病院 臨床心理部	思春期の小児がんサバイバーの心理社会的問題と精神健康に関する研究
文野 誠久	京都府立医科大学 小児外科	神経芽腫に対する遺伝子組換え GD2 抗体発現間葉系幹細胞による新規細胞療法の開発
福岡 講平	埼玉県立小児医療センター 血液・腫瘍科	減量放射線治療を受けた髄芽腫症例における予後バイオマーカーの探索
福井 里奈	千葉県こども病院 検査部放射線科	デジタル医療絵本を用いたプレパレーションによる患児の放射線被ばく低減への試み
森 健	兵庫県立こども病院 血液・腫瘍内科	標準的化学療法を行った進行期小児リンパ芽球性リンパ種の予後因子探索を主目的とした多施設共同研究 JPLSG-ALB－NHL-14
柳沢 龍	信州大学医学部附属病院 輸血部	小児がん患者のアレルギー素因から展開する輸血副反応予防策の検討
吉見 昭秀	国立研究開発法人国立がん研究センター 研究所 がん RNA 研究ユニット	小児がん検体を用いた Deorphanization と新規がん治療法の開発

（2）海外留学助成事業

小児がんに関わる若手の医療者が、海外の医療施設や研究・教育施設等に留学することにより、小児がん医療に関する高度な知見や資格・技術等を習得・取得し、広く小児がん医療及び患児・家族の療養環境の向上に寄与できることを目的として、2 年に 1 回の募集を行い、留学にかかる費用を助成する事業です。本事業は審査機関を一般社団法人日本小児血液・がん学会教育研修委員会に委託し実施しております。

〈2021 年度結果〉

助成対象者：仲野 聡（名古屋大学大学院医学研究科 病態外科学小児外科）

研究 課 題：Comprehensive analysis of tumor micro-environment and oncogenic adaptation in sarcoma cells.（肉腫細胞における腫瘍微小環境と発癌適用の包括的解析）

留 学 先：University of Freiburg（フライブルク大学）



4 総合支援施設運営事業

(1) アフラックペアレンツハウスの運営事業

アフラックペアレンツハウスは、亀戸（東京都江東区亀戸、2001年2月開設）、浅草橋（東京都台東区浅草橋、2004年12月開設）、大阪（大阪府大阪市中央区、2010年1月開設）の3か所あります。小児がんなど難病の患児・家族に寄り添う、日本で最初の総合支援センターとして運営を開始しました。これまで宿泊部門では、3棟で延べ147,294名の方にご利用いただいております。

2021年2月には、アフラックペアレンツハウス亀戸の開設20周年を迎えました。コロナ感染症の影響で記念行事は執り行わず、「開設20周年ニュースレター」を発行いたしました。宿泊部門で20年間にわたって延べ66,522名にご利用いただくことができました。

尚、運営に関する費用については、アフラック並びにアフラックの社員及び全国の代理店（アフラック全国アソシエイツ会）の皆様からのご支援により賄われ、また、その他にも多くの企業・個人の方々からのご寄贈やボランティア、医療関係者によるご支援も頂きながら運営を継続しています。更に10月にアフラックの創業者であるポール・S・エイモス氏のご夫人、ジーン・エイモス氏の追悼寄付にて亀戸に2台目の駐車場スペースが完成しました。

コロナ禍が長引く中、東京、大阪ともに遠方から病院に行くためにペアレンツハウスを利用してくださる患児やご家族のために何ができるのかを考える一年でした。またコロナ禍だからこそ、多くのご寄贈、ご寄附、ご支援を頂いた一年でもありました。

■宿泊利用状況

延べ宿泊利用家族数（2021年4月1日～2022年3月31日）※（ ）は前年度
 亀戸（10室） / 12家族（1家族）
 浅草橋（14室） / 176家族（106家族）
 大阪（12室） / 148家族（153家族）
 計 336家族（260家族）



▲ 浅草橋



▲ 大阪



▲ 亀戸

(2) その他の宿泊施設

①あかつきハウス

あかつきハウスは、1995年から東京都中央区の区立住宅「築地あかつき住宅」の一室をお借りして、遠隔地から東京都中央区内の病院で治療をされる患児とその家族のための宿泊施設として管理・運営をしています。2021年6月に室内をリフォームし、新たに明るく過ごしやすい空間になりました。利用料は1泊2,000円（寝具等の維持管理費含む）です。2021年4月1日より2022年3月31日までの間、延べ7家族が利用されました。



②三重ファミリールーム

三重ファミリールームは、三重大学医学部附属病院、および近郊の病院に入院中あるいは小児科外来等に通院中の小児慢性疾患児とその家族のための宿泊施設で、2階建ての建物に和室4室があります。三重ファミリールーム運営委員会（三重大学附属病院小児科内）と当会で管理・運営しています。利用料は1泊1,000円、昼間の利用は300円です。2021年4月1日より2022年3月31日までの間、延べ10家族の利用がありました。

5 小児がん・難病対策

当会では設立以来、新薬の承認、医療費の公費負担の実現など小児がん患児・家族が抱える制度上の問題を訴え、発信し続けてきました。国や地方自治体が運営する様々な協議会に当会会員が患者家族の代表として参画し、政策への意見や提言を活発に述べることができました。

■小児・AYA世代がん対策政策提言のためのワーキンググループ

2023年度から始まる第4期がん対策推進基本計画策定に向け、広く全国の小児がん患者・家族からの要望をまとめる目的で、小児がん患児の親20名、小児がん経験者15名の合計35名の有志から成る小児・AYA世代がん対策政策提言のためのワーキンググループを組織し、当会が事務局を担って活動をしています。今年度は、要望のカテゴリー別グループ（医療・福祉、教育、仕事）を中心に計9回にわたりオンラインによるワーキングの会合を経て、厚生労働省及び文部科学省あての要望書をまとめる協議等を実施しました。なお、本ワーキンググループは、2か年計画で組織されており今年度はその1年目となります。

■アンケート調査

上記のワーキンググループによる要望書策定に当たり、より広く様々な意見を取り入れるための資料として、患者・家族を対象としたアンケート調査を実施しました。

内 容：「小児・AYA世代がん対策の政策提言に向けたアンケート調査」

依頼事項：会員外の小児がん患者・経験者及び家族へのアンケート協力の依頼

調査期間：2021年10月1日～31日

調査方法：無記名のwebアンケート調査

回 答 数：227件



■ 2021 年度要望書提出一覧

- ・ 2022 年 1 月 25 日 「タズベリク錠」の類上皮肉腫に対する保険適応に関する要望書（日本医師会）
- ・ 2022 年 2 月 14 日 「小児血液・がん専門医制度機構認定に関する要望書」（日本専門医機構）

■ 当会が参画している委員会及び各地域のがん対策協議会など

全国	小児がん中央機関アドバイザリーボード
北海道	高等学校段階における入院生徒に対する教育保障体制検討会議
関東	がん対策推進協議会（栃木県）
	がん対策推進協議会、他（東京都）
	小児がん診療連携協議会（東京都）
新潟	慢性疾病児童等地域支援協議会（県、新潟市）
富山	がん対策推進協議会
福井	がん委員会
	がん治療相談支援部会
	県難病患者団体連絡協議会
静岡	慢性疾病児童等地域支援協議会（県、静岡市）
関西	小児・AYA 世代のがん対策部会（大阪府）
岡山	がん対策推進協議会
愛媛	がん対策推進協議会
	がん相談支援推進協議会
	慢性疾病児童等地域支援協議会
高知	がん対策推進協議会
九州北	がん対策推進協議会（福岡県）
九州西	がん教育普及推進協議会（長崎県）
沖縄	がん対策推進協議会
	がん診療連携協議会 小児・AYA 部会

6 支部活動

当会には全国に 21 の支部があります（2022 年 3 月 31 日現在）。各地域の会員ボランティアにより組織され、地元の医療関係者等の協力を得ながら、各地のニーズにあわせた相談会や交流会などを開催し、患児・家族と医療関係者のコミュニケーションを深めるとともに、患児・家族のよりよい療養生活の実現を目指して活動しています。

(1) 講演会、交流会、相談会、総会等

開催月	支部	内 容
5 月	広島	総会・講演会「がんの子どもを守る会での相談等について」 Web 開催
7 月	新潟	病院がプラネタリウム（新潟県立がんセンター新潟病院） ユーチューブ同時配信
	福井	福井大学病院小児科病棟のぞみお話タイム夏祭り （共催：認定 NPO 法人日本クリニクラウン協会） Web 開催
	宮崎	講演会「小児がんと成長」 Web 開催
8 月	岡山	交流会 Web 開催
	九州北	レモネードスタンド in ふくおか（JR 博多駅前）
9 月	福井	のぞみ北陸小児がん ONLINE セミナー「小児がん経験者の長期フォローアップと健康管理」（主催：福井本丸ライオンズクラブ） Web 開催
	九州北	第 4 回小児がんのこどもの教育を考える講演会「病気療養中の小中高校生の教育の充実を求めて～学校と病院で連携してできる支援のあり方～」（主催：九州大学病院） Web 開催
10 月	九州北	第 51 回講演・交流会「小児がん専門医が子どもたちから教わること」「福岡に子どもホスピスを」「福岡ファミリーハウス 26 年の歩みと今後の展望」 Web 開催
12 月	福島	院内クリスマス会（福島県立医科大学附属病院）
	福井	福井大学病院小児科病棟のぞみお話タイムクリスマス会（共催：認定 NPO 法人日本クリニクラウン協会） Web 開催
1 月	九州北	九州沖縄地域小児がん医療提供体制協議会市民公開講座「小児がん経験者からのメッセージ」 Web 開催
2 月	静岡	小児慢性特定疾病自立支援事業 静岡県東部保健所合同講演会「こどもから大人に向けた準備」 Web 開催
	関西	近畿小児血液・がん研究会公開シンポジウム「支持療法について考えよう」 Web 開催
3 月	東海	講演会～子どもたちの学びを保障する支援～（三重大学医学部附属病院）「AYA がんの現状と当院に期待されること」「当院での高等部設置に向けて」 Web 開催

※他、各支部では様々なイベントや啓発活動、募金活動等を実施しました。

(2) 支部連絡会

支部活動の活性化、および質の向上を目的に全国 21 の支部幹事を対象に年 2 回開催しております。本年度は 6 月と 10 月の 2 回開催しましたが、いずれも新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、Web での開催とし、今後の活動についての意見交換が行われました。



7 広報・啓発・募金活動 等

第26回がんの子どもを守る会公開シンポジウム

2021年11月25日（木）～11月27日（土）にWeb開催にて第63回日本小児血液・がん学会学術集会（井上雅美会長／大阪母子医療センター）、第19回日本小児がん看護学会学術集会（田家由美子会長／大阪母子医療センター）第26回公益財団法人がんの子どもを守る会公開シンポジウムがオンラインにて開催されました。

後援：厚生労働省、文部科学省、大阪府、大阪市、公益社団法人 日本小児科学会、一般社団法人 日本小児外科学会、一般社団法人 日本小児看護学会

■三団体合同公開シンポジウム（市民公開講座）

「小児・AYA世代がん患者の教育支援を考える」

・日 時：11月27日（土）14：10～16：40 オンラインライブ配信
（12月2日～12月18日までオンデマンド配信）

・座 長：井上 雅美（大阪母子医療センター 血液・腫瘍科）
田家由美子（大阪母子医療センター 看護部）
山下 公輔（公益財団法人がんの子どもを守る会 理事長）

・シンポジスト

深草 瑞世（文部科学省初等中等教育特別支援教育科 特別支援教育調査官）

早川 晶（JCCG 長期フォローアップ委員会 淀川キリスト教病院）

久保田一男（難病学生患者を支援する会）

大窪 英行（京都市立京都工学院高等学校 校長）

青山 虎雅（小児がん経験者）

・オンラインライブ事前申込者 159 名

■小児がんの子どもたちの絵画展

当会では、多くの方に小児がんのことを知っていただくことを目的に、1988年より小児がんの子どもたちが描いた絵を展示し「小児がんの子どもたちの絵画展」を開催しています。本年度は、日本小児血液・がん学会学術集会がオンラインで実施されたことに伴い初の試みとしてオンラインでの絵画展を開催し、26点を展示しました。

・期 間：2021年11月25日（木）～12月17日（金）

・来場者：約3,000人

助成：公益財団法人 JKA によるオートレース補助事業

協賛：原田積善会、キャノンメディカルシステムズ株式会社

※例年学会の際に開催している「チャリティウォーク」、「関連団体紹介コーナー」など、当会のその他の催しは、2021年度はオンライン開催のため中止となりました。



ブース出展

今年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止等の観点から、小児がんの患児・家族への支援を目的にした各種チャリティイベントや小児がん関連の会合がオンライン開催になった事に伴い、ブースもオンラインにて出展いたしました。

東京マラソン2022チャリティ寄付先団体としての活動

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、東京マラソン2021の開催日が延期された結果2022大会は開催が断念され、当会が寄付先団体として選ばれていた東京マラソン2022チャリティを通じた寄付金募集も見送りとなりました。

ゴールドリボンによる啓発活動

ゴールドリボンとは、小児がんに対する理解や支援をよびかけるときに使われる世界共通のシンボルマークです。ゴールドリボンをあしらったアクセサリーを作成し、小児がんの啓発を兼ね、募金をされた方へ贈呈しました。

本年度も多くの企業や有志が集まった方々に様々な工夫を施した広報・募金活動を行っていただきました。

※ 500円以上の募金につき1つ、ゴールドリボンのバッジやストラップをお渡しして小児がんの理解や支援を広めています。本年度は、ピンバッジ2,088個、ストラップ1,475個、スワロフスキー付ピンバッジ100個、ネックレス650個のご支援をいただきました。

（ゴールドリボンの製作費は清水建設株式会社に、バッジの組み立てにはモルガンスタンレーのご支援とご協力をいただきました）。



ゴールドリボンイラスト



ピンバッジタイプ



ストラップタイプ

チャリティバッグの頒布

小児がん支援のシンボルマークであるゴールドリボンのイラストをプリントしたチャルティーバッグの頒布を数量限定で開始いたしました。1,000円以上の募金をいただいた方に頒布しました。



常設募金箱の設置

店舗のレジ横などに設置できるオリジナル募金箱を作成し、支援者の方々のご協力のもと、広く募金活動を展開することができました。全国で52か所に設置のご協力をいただいております。

支援自動販売機設置

売上の一部が当会に寄付される支援自動販売機があります。全国36か所に設置していただいております。



▲ 常設募金箱



▲ 支援自動販売機



機関紙「のぞみ」の発行

当会創立時より、小児がんに関する情報提供及び当会活動の紹介・報告を目的に「のぞみ」を発行しています。本年は、下記の4号を発行いたしました

号	発行月	内 容
第205号	2021年4月26日	- WEB講演会「小児がんによる高次脳機能障害との付き合い方」 - 事業計画、収支予算、年間スケジュール - 要望書提出について 他
第206号	2021年7月30日	- 年次大会報告 - 講演「国の小児・AYAがん対策の現状」 - アフラックペアレンツハウスとあかつきハウスのリフォーム - 子どもたちの絵画展 他
第207号	2021年9月28日	- 年次大会講演「小児がん経験者の健康管理」 - 小児がん経験者の会 リーダーの集い - 休眠預金活用事業のお知らせ 他
第208号	2022年2月1日	- 第26回公開シンポジウム報告 - 座談会「小児・AYA世代がん経験者の健康管理」 - CCI参加報告 - SMS、富士山にアタックイベント報告 他

小児がんに関する冊子・資料の発行

より良い療養環境の整備に寄与することを目的として、冊子の発行を行い、患児・家族、小児がん医療に携わる医療者、教育関係者等に配布しました。

国際小児がんデーの活動

2月15日は「国際小児がんデー」です。国際小児がんデーは国際小児がんの会（CCI：Childhood Cancer International）により創設され、国際小児がん学会（SIOP：International Society of Paediatric Oncology）など世界的な主要機関のネットワークにより広がられています。当会では、1月1日～3月31日をキャンペーン期間とし、全国的に小児がんの啓発に努めました。また、小児がんの子どもたちを支援する気持ちを身近な人と分かち合ってもらいたいとの想いで、メッセージカード付きのオリジナルチョコレートを用意して、多くの方にお届けしました。



■啓発活動など

本年度は全国的な新型コロナウイルス感染症の影響により活動に制限がある中、感染症対策を十分に講じながら商業施設や病院、大学、行政機関などにご協力をいただき啓発チラシ設置や、ポスターの掲示、ゴールドリボンツリーなどを飾りました。

〈主な協力機関〉（順不同・敬称略）

行政・公共機関等

宮城県庁、栃木県庁、文京区（東京都）、福井県庁、小浜市役所、敦賀市役所、岡山県庁、岡山市、福岡県庁、福岡市役所、直方市役所、飯塚市役所、宗像市民図書館、嘉穂図書館、山田図書館、桂川町役場、桂川町立図書館、桂川総合福祉センター、ウェルとばた、宗像・遠賀保健福祉環境事務所、福津市立図書館、飯塚市役所筑穂支所、築上町役場・物産館、大分市保健所、浦添市役所、沖縄市役所 他

病院等医療機関

北海道大学病院小児科病棟、福島県立医科大学附属病院、埼玉県立小児医療センター、愛媛大学医学部附属病院、東京医科歯科大学、東京都立小児総合医療センター、国立成育医療研究センター、福井大学医学部附属病院、福井県済生会病院、福井赤十字病院、福井県立病院、本馬医院、敦賀医療センター、岡山大学病院、岡山医療センター、岡山日赤病院、岡山済生会病院、倉敷中央病院、川崎医科大学、津山中央病院、高梁中央病院、金田病院、岡山健康づくり財団、岡山労災病院、岡山市民病院、倉敷成人病センター、岡山県難病相談支援センター、広島大学病院、佐賀県健康づくり財団メディカルセンター、大分大学医学部附属病院、宮崎大学病院、九州がんセンター、九州大学病院、産業医科大学、琉球大学附属病院、沖縄県立南部医療センター・こども医療センター、琉球大学、沖縄県立看護大学 他

教育機関等

仁愛女子短期大学、敦賀気比高等学校、若狭高等学校、敦賀看護大学、旭川荘厚生専門学院、めぐみ保育園、恵大保育園、山野保育園、ひまわりの里、とんの幼稚園、沖縄大学、沖縄女子短期大学、沖縄県立鏡が丘特別支援学校 他

企業・商業施設等

アフラック生命保険株式会社、アフラック販売代理店、武州製薬株式会社 / 武州製薬ユニオン、サントムーン柿田川、みやの森カフェ、る・ふっくらん、プレスステージインターナショナル アランマーレ、シーザースキッチン株式会社、カフェ縞、山陽新聞社、南海放送株式会社、織田廣喜美術館、道の駅しんよしみ、イオンモール福津、一般社団法人 kukuru、pizzeriaMaruburin、ケーキ屋ミネット、ボンジュールネ、認定 NPO 法人 こども医療支援 わらびの会、放課後等デイサービスオリーブ 他

イベント

LIVE EMPOWER CHILDREN2022（主催：一般社団法人 EmpowerChildren, 朝日新聞社）

小児がん WEB 交流フェスタ 2022（主催：国立成育医療研究センター小児がんセンター）

* その他、全国多数の商業施設等で募金・啓発活動にご協力をいただきました。

キャンペーンの報告等、詳細はスタッフブログでもご紹介しております。
<http://blog.canpan.info/nozomi/>



小児がん啓発月間（Childhood Cancer Awareness Month）の活動

毎年9月に世界中の小児がん団体が「小児がん啓発月間 / Childhood Cancer Awareness Month」において、小児がんの理解を促し支援を求めることを目的に様々な活動を行っています。当会でも今年度はホームページ上に小児がん啓発月間特設ページを開設し啓発をするとともに、「#ゴールドみつけ CCAM2021」としてゴールドにちなんだ写真を募集しました。また、3つのペアレンツハウス（浅草橋、亀戸、大阪）をゴールドにてライトアップする他、日本小児がん研究グループ（JCCG）のGlobal Gold September Campaign2021と協働し、北海道支部によるさっぽろテレビ塔、九州西支部による稲佐山山頂電波塔と佐賀メディカルセンタービルのライトアップをしました。

8 国際活動

国際小児がんの会（CCI/Childhood Cancer International）年次総会への参加

国際小児がん学会（SIOP/International Society of Paediatric Oncology）と同時期に開催される国際小児がんの会（CCI）年次総会への参加を公募で募る派遣事業を小児がん患児の親及び小児がん経験者を対象に実施しております。今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響のためオンライン開催となり、現地派遣はなくオンライン参加の参加費助成を行いました。

開催日程：2021年10月21日～24日（主催地：ハワイ）

派遣（参加）者：小児がん経験者／清水義仁
親／園部かおる

* 国際小児がんの会（CCI/Childhood Cancer International）への参加加盟国は90カ国、170団体となりました。

PHPF（Parents Helping Parents Fund）への協力

開発途上国等の国際小児がんの会（CCI/Childhood Cancer international）年次総会参加を支援するための基金「PHPF」に600ユーロの寄付を行いました。

9 奨学金事業（アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学金制度）

当事業は小児がん患児に充実した学校生活を送ってほしいとの想いで設立され、2014年度より奨学金の給付を開始しました。2015年度より、がん遺児も対象に加えて奨学金を給付しました。なお、本奨学金制度の内容は下記の通りです。

※当事業についてはアフラック並びにアフラック社員の皆様及び全国の代理店（アフラック全国アソシエイツ会）の数多くの方々からご支援を受け運営しています。

対 象 者

- ・18歳未満で小児がんを発症した経験者及び、がんにより主たる生計維持者を失った遺児で、経済的な理由で高校等の進学・修学が困難な方。
- ・給付開始時に高等学校等に在学中の方。
- ・申請時における前年度の世帯収入が当会の定める上限を超えない方。

対象となる教育機関

「高等学校」、「中等教育学校の後期課程」、「専修学校の一般課程及び高等課程」、「特別支援学校の高等部」、「高等専門学校」

給 付 金 額

- ・月額20,000円
- ・対象となる教育機関で正規の最短修業期間。
- ・奨学金の返還は原則不要。

本 年 度 実 績

小児がん経験者：助成件数 69件（高1 15件、高2 25件、高3以上 29件）
が ん 遺 児：助成件数 327件（高1 70件、高2 110件、高3以上 147件）
合 計：助成件数 396件（高1 85件、高2 135件、高3以上 176件）
給 付 金 額：93,970,000円

10 ボランティアコーディネート・研修会

(1) 遊びと学習のボランティア たんぽぽ

「遊びと学習のボランティア たんぽぽ」は、当会ソーシャルワーカーが福祉系大学に通う学生に呼びかけ結成されたボランティアグループであり、1992年より現在まで、東京慈恵会医科大学附属病院小児病棟にボランティアを週1回派遣し、入院患児を対象に遊びの支援活動をおこなっています。しかしながら本年度は新型コロナウイルス感染拡大予防対策のため院内ボランティアの受入が全面中止となり、「たんぽぽ」も病棟で活動することができませんでした。「たんぽぽ」の活動に常日頃から協力いただいているスタイリングライフ グループからの寄付でいただくステッカーアートキットにメッセージをつけて小児病棟へプレゼントしました。

(2) ボランティアコーディネート

当会事業推進のために、本部事務所（東京）と大阪事務所で延べ48人（うちペアレンツハウスボランティアとして30名）からボランティア協力をいただきました。本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、ボランティア活動を制限せざるを得ない状況となってしまいました。また当会にてボランティアとして登録されている方には、ボランティア研修を予定していましたが、同じく新型コロナウイルス感染症対策の観点から中止と致しました。



11 調査研究協力

■調査研究委託

2021年度の当会への調査研究に関連する協力の依頼は6件あり、下記5件について調査研究委員長の承認が得られ、以下の通り関係者へ協力を呼びかけました。

研究名称	協力内容
「思春期若年成人世代の血液腫瘍患者への情報提供の在り方と支援のためのアンケート調査」 兵庫医科大学病院血液内科 大杉 タ子	対象：15歳以上25歳以下に診断された血液腫瘍の患者 ならびにサバイバーの方で、現在40歳未満の方 方法：インターネットによるアンケート調査
「AYA世代（思春期・若年成人）がん患者のがん・生殖医療に対する経済負担に関する実態調査」 聖マリアンナ医科大学産婦人科 鈴木 直	対象：がん診断時に生殖能力を有した、現在満20歳～60歳の男女 方法：インターネットによるアンケート調査
「小児がんのこどもとその家族が受けた終末期医療・ケアに関する質問紙調査実施に向けた遺族へのインタビュー」 国立成育医療研究センター緩和ケア科 余谷 暢之	対象：小児がんで亡くなった患者（0-19歳）の遺族10名程度 方法：web会議システムによるグループインタビュー調査
「小児がん経験者における小児期からの成人期のフォローアップトランジションモデルの構築」 国立研究開発法人国立国際医療研究センター 乳腺・腫瘍内科医長 清水 千佳子	対象： 1. 小児がん経験者 20歳以上の小児がんの治療が終了している方 2. 小児がん経験者の親 15歳以上の小児がんの治療が終了している小児がん経験者の親 （1と2は同一家族で無くても良い） 調査方法： 1. 小児がん経験者 インタビュー調査、調査用紙を用いた無記名によるアンケート調査 2. 小児がん経験者の親 インタビュー調査
「小児・AYA世代がん対策の政策提言に向けたアンケート調査」 公益財団法人 がんの子どもを守る会	対象：会員外の小児がん患者・経験者及び家族 方法：インターネットによるアンケート調査

12 2021年度年次大会開催

2021年6月6日に2021年度年次大会を「小児がん経験者の健康管理」をテーマに開催しました。昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑み、オンラインによるライブ配信にて開催し、当日は、200名以上の方に視聴いただきました。講演については「のぞみ」207号に講演録を掲載し、報告いたしました。

講演
「小児がん経験者の健康管理」 愛媛県立中央病院小児医療センター長 石田 也寸志 先生

■Web講演会

新型コロナウイルス感染症拡大により生活に影響を受けている多くの皆さまに、心よりお見舞いを申し上げます。

新型コロナウイルス感染症拡大により、年次大会の際に開催しているきょうだいの分科会ができなかったことから、2021年度年次大会関連企画としてweb講演会を実施いたしました。講演会の後には、希望者たちできょうだいについて語り合いました。

日時：2021年11月14日（日）

第1部：13:30 - 14:25

講演：「小児がんのこどものきょうだいたち」

講師：小澤美和先生 聖路加国際病院小児科医長

第2部：14:30 - 15:30 zoom開催

小澤先生と小児がんのこどものきょうだいについて話をしませんか

13 クリスマスプレゼント

昨年に引き続きコロナ禍の中でも治療を頑張っている子どもたちが少しでも笑顔になれるようにと、全国の小児病棟等へのプレゼントについてAmazonのウィッシュリストも活用しながら、ご協力をお願いをホームページやブログでご案内させていただきました。個人の方や企業の方から、おもちゃ、文具、帽子やぬいぐるみ、カードゲーム、絵本など多岐に渡る品が届き、これらは当会の支部や小児がん親の会、小児がんの診療施設などを通じて全国76か所の約2,500人の小児病棟に入院中の子どもたちや療養中の子どもたちにお届けすることができました。

ご支援いただいた皆様

大原薬品工業株式会社、ニューエラジャパン合同会社、ブランド・ロイヤルティ・ジャパン株式会社、スタイリングライフグループ、株式会社大和証券グループ本社、東京上野東ライオンズクラブ、エア・ウォーターメディカル株式会社、他、個人の方々からも多数のプレゼントをご支援いただきました。

14 企業・団体からのご協力（敬称略・順不同）

物品寄付

株式会社健明、久留米高牟礼ライオンズクラブ、東京メディカルライオンズクラブ、株式会社ガイア、株式会社インテリム、ニューエラジャパン合同会社、株式会社大和証券グループ本社、第一生命保険株式会社、スタイリングライフグループ、大阪府宅地建物取引業協会中央支部、クローズバイジャパン、株式会社エトロジャパン、Denis Japan株式会社、株式会社KANSOH、丸全商事株式会社、モルガン・スタンレー、毎日新聞社会事業団、なるも みき、相澤 るり子、大橋 孝次、時津 友香

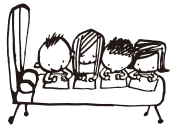
ご招待

アフラック生命保管株式会社、毎日新聞社、川畠成道音楽事務所、新日本フィルハーモニー交響楽団 他

募金活動、他ボランティア活動

アフラック生命保険株式会社、モルガン・スタンレー、神戸フィルハーモニック 他

～その他、支部においてもたくさんの企業・団体さまからご支援いただきました～



寄付・募金者一覧

(2021年4月1日～2022年3月31日)

寄付・募金者一覧



寄付者一覧

※敬称略

株式会社 ASP bois 株式会社 CFP CUI YANG ENEOS保険サービス株式会社 広島営業所 株式会社 gingerup i ネットリフォーム株式会社 有限会社 L保険企画 株式会社 marron marron 株式会社 One&Only 株式会社 PLUS ONE Proclinical株式会社 RAJAPAKSHA KAUSHALYA 株式会社 SKライフサポート保険事務所 Sugiyama paint 相川 勝 愛知製鋼株式会社 相原 大和 青木 茂 青木 千賀 青木 嘉仁 赤星 賢 秋本 俊治 秋山 康介 秋山 由里子 株式会社 アコーセラミック 浅田 博司 浅田 洋子 浅野 通直 株式会社旭運送 浅見 恵子 浅見 美紀 有限会社 芦川硝子店 有限会社 アシストハウス 署名 俊宏 アストラゼネカ株式会社 東 博行 東 めぐみ 東 裕也 足立 義一 渥美 紗也子 アフラック横浜支社 アフラック大分支社 アフラックサービショップ横浜石油株式会社 アフラック道央アソシエイツ会 アフラック町田アソシエイツ会 アフラック三重県アソシエイツ会 阿部 光恵 アボットジャパン株式会社 アムンディ・ジャパン株式会社 新井 雅樹 荒木 真悟 荒木 陽菜子 安東 久隆 安藤 雅章 LEE EOL 飯島 佐和子	飯塚 敦夫 飯塚 郁 飯塚カトレアライオンズクラブ 飯塚竜王ライオンズクラブ 五百川 麻子 五十嵐 愛奈 五十嵐 香織 猪狩 洋子 池田 修子 池田 達朗 伊佐 龍寿 石井 正之 石上 久美 石川 由紀 石川 幸雄 石田接骨院 石野 かほり 石橋 里季 石橋 裕史 石原 節子 石原 貴泰 石本 沙弥香 石山 和志 Lee Joonku 泉 由幸 磯部 直美 市川 瑞穂 株式会社 一の宮カントリー倶楽部 市原 真 伊月 真砂子 井出 智子 射手園 知佳 伊藤 晶子 伊東 剛 伊藤 奈央 伊藤 尚子 伊藤 満里子 伊藤 由美子 伊藤忠商事株式会社 稲畑産業株式会社 井上 清美 井上 桂樹 井上 真理子 茨城県庁医師会 会長 木庭 愛 井福 亜希 今井 淳之 今井 正 今井 達昌 今泉 貴仁 今里 千恵子 医療法人 井口小児科 医療法人 おおはし小児科 医療法人 すみれ会 中央病院 岩男 加代 弁護士 岩上 公一 岩倉 良昭 岩崎 公子	岩下 ルミ 岩田 吉郎 岩谷産業株式会社 岩月 実 ゆうた 植田 千里 上野 幸代 上野 慎治 上野 智宏 内田 裕之 内田 道治 内野宮 ふよ子 宇藤 令子 海のそばのカフェ bliss point 梅田 憲嗣 株式会社 梅原洋紙店 浦本 楓 瓜生 孝江 エイ・エフ・ビル管理株式会社 株式会社 エイティー エーザイ株式会社 筑波研究所 AGCマイクロガラス株式会社 株式会社 Agent 江口 美沙紀 江戸 靖浩 江藤 智佐子 株式会社 エミシエア 遠藤 大介 大植 孝治 大浦 幸子 大木 綱雄 大木 泰昌 大久保 明 大久保 俊樹 大久保 美佐子 大久保 一恵 大蔵 隆彦 大阪ヴァイオレットライオンズクラブ 社会福祉法人 大阪府母子寡婦福祉連合会 大崎 誠 大島 泰子 大須 恵美子 大須賀 ひさ子 太田 愛子 太田 鈴子 太田 浩史 有限会社 大瀧設備事務所 大津 真由美 大西 紀子 大場 幸夫 おおばのぶたか れあ おはな 大原小児がん基金 大森 豊寛 株式会社 OKAZAKI 岡崎 節子 岡崎 昌世 岡田 由加利 公益財団法人 お金をまわそう基金	岡部 美樹 岡本 英理子 岡本 幸一 岡山 宇太郎 小川 光枝 奥野 達也 小倉 敏雄 小倉 渚彩 尾崎 亜矢子 尾崎 雅子 落合 章 落合 仁 小野 智久 おのうえこどもクリニック 小野寺 宇蘭子 恩田 聡美 海田 由美子 花王株式会社 香川大学医学部付属病院 垣水 孝一 景山 高行 笠原 千尋 柏田 達夫 片岡 裕美 勝浦 広基 勝瀬 求 勝野 紀美代 勝俣 花菜 加藤 孝 加藤 学 加藤 友和 加藤 廣久 加藤 正彦 加藤 佑弥 金山 直司 金子 武行 兼松株式会社 鎌田 順子 鎌田 政之 鎌田 道彦 亀井 加代子 鴨作 卓弥 刈谷 雅夫 川上 ますみ 川口 弘二 河出 トシ 川又 ひとみ 菅 和代 神田 幸治 公益財団法人 がんの子どもを守る会を応援する会 菊池 寿美 木口 麻美 小森 眞幸 木澤 三千代 岸田 恭二 株式会社 北日本ライフサービス 北原 義明
---	---	---	---

北村 佳代子 北村 智子 木下 恵子 木下 成顕 木下 健 木原 伊久美 木原 陽佑 木平 健太郎 君羅 好史 キムジェファン&+81WIN 木村 幸恵 きもべつ喜らめきの郷 キャノン株式会社 キャノンメディカルシステムズ株式会社 有限会社 キャピタル 九州大学病院 協和キリン株式会社 清崎 文子 桐谷 万亀子 金城 淳子 株式会社 草むしり 楠井 晶 工藤 聡平 久保 香 久保 香葉 久保木 裕子 久保田 一男 窪田 貢 隈崎 哲也 熊本 雄貴 熊本歯科衛生士専門学院 熊本第1ライオンズクラブ事務局 久米 てる子 倉田 知展 栗山 巧 栗山 宣夫 樹沢 静枝 暮部 勢子 株式会社グローウィング 黒川 征治 黒河 孝幸 黒川 朝子 黒木 智 クロダ ノブコ 黒羽 薫 小池 恭子 小泉 晶一 小出 芳弘 小出 善己 高知医療センター すこやかA 株式会社神戸製鋼所 興和株式会社 コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社 古賀印刷株式会社 小久保 憲宏 小嶋 秀則 小島 昌子 後藤 修平 後藤 雅 後藤 悠介 小林 泉 小渕医院 小渕 聖子 小松 若奈 駒村 幸雄 小宮 毅	株式会社 コメディイイダ 齊木 慶丈 埼玉医科大学国際医療センター 財津 克典 斉藤 恵美 齋藤 さゆり 齋藤 さらら 斉藤 孝 斎藤 正博 株式会社 材料屋 酒井 あゆみ 酒井 圭子 坂井 恵衣子 堺 久枝 榊 睦子 榊原 悠児 榊原 義夫 坂口 喜浩 株式会社 阪口メンテナンス 坂田 年 酒徳 浩之 坂本 絵美 阪本 哲男 坂元 友子 有限会社 サキコーポレーション 笹川 泰弘 佐々木 大輔 佐々木 陽子 笹原 由美子 佐藤 明子 佐藤 公則 佐藤 浩 佐藤 富士子 佐藤 町子 佐藤 穂 佐藤 里奈 佐野 竜也 サノフィ株式会社 左龍 澤田 敦子 沢田 祐子 サン・マネージメント株式会社 株式会社 三平商会 シーザースキッチン株式会社 椎名 延年 CBC株式会社 JFE商事株式会社 JFEスチール株式会社 塩津 伸司 塩見 安男 重村 真弓 篠田 章 篠原 百合子 柴田 和子 柴田 整 渋谷 美恵子 渋谷 幸枝 島田 佳奈子 島田 健司 島野 忠之 清水建設株式会社 志村 朱美 下林 正大 下山 睦子 下山 政行	一般社団法人 ジャパンケネルクラブ 大阪ブロック協議会 株式会社 昌和運輸 白井松新薬株式会社 秦 舞 一般社団法人 人生100年時代のライフプランを考える会 一般社団法人 信託協会 新谷 葵 菅原 宏治 菅原 裕子 杉田 完爾 杉中 由紀 杉本 友子 鈴木 和子 鈴木 克彦 鈴木 毅 鈴木 千衣 鈴木 千穂 鈴木 久夫 鈴木 宏子 鈴木 正裕 鈴木 正洋 鈴木 由美子 スタジオ旭 須藤 壮太郎 住友商事株式会社 住友ファーマ株式会社 盛華商事株式会社 一般社団法人 生命保険協会 関 真幸 瀬口 明 NPO法人 次世代のチカラFUKUOKA 株式会社 ZEROPLUS 千賀 伸一 一般社団法人 全国銀行協会 一般社団法人 全国信用金庫協会 ST.BALDRICK'S FOUNDATION 宗 清志 株式会社 相建 株式会社 創健企画 双日株式会社 一般社団法人 ソーシャルクリエーション 曾我 高臣 曾根 宏磯 園 克彦 空谷 虎隼 第一生命ビジネスサービス株式会社 第一生命保険株式会社 大阪コールセンター 第一生命労働組合 だいき動物病院 高橋 大同特殊鋼株式会社 多賀 哲男 高坂 美恵子 高澤 仁司 高城株式会社 高瀬 一使徒 タカセ電器 高田 明子 高田 尊信 高永 由紀子 高橋 悦子 高橋 和子 高橋 建太 高橋 繁雄 高橋 晶子 高橋 まどか	高橋 都 高見 征子 高山 香世 滝口 史 田口 洋子 武石 香 竹内 次郎 嶽小原 恵 竹島 開 竹脇 博一 竹村 統成 田島 朋知 田尻 健 田代 康仁 多田 大輔 龍田 昭一 田中 達男 田中 ひとみ 田中 浩喜 田中 雄 棚澤 雄介 田邊 唯美子 谷山 健太郎 種田 寛 玉井 克明 玉川 京子 垂井 浩 中外製薬株式会社 中外製薬労働組合 ぼけっと基金 張 光陽 丁田 美奈子 蝶理株式会社 株式会社 椿山 珍田 律子 ソーサン株式会社 有限会社 築地につしん太助 辻林 温子 津田 治 津田 留美 酒処ていーだ 株式会社 メディカル・アイ・ファミリー 株式会社 データシステム 出口 和子 手嶋 佐千子 手塚 悦子 寺田 翠 寺田 有希子 照井 美穂 東京ウィルライオンズクラブ 東京ビハラー 東京マリオットホテル 當山 美桜 東洋英和女学院小学部母の会 渡海 至康 砥上 梨枝子 利川 春子 一般財団法人 凸版印刷三幸会 土手 多喜子 殿畑 正生 トビー工業株式会社 飛松 恵里子 富田 基生 富山福祉短期大学 豊岡 正仁 豊田 晃
---	---	--	---



豊田 純子 豊田通商株式会社 トライム 鳥沢 竹彦 トレックジャパン株式会社 内藤 龍平 内藤 真澄 ナカイ株式会社 中尾 憲治 有限会社 ながお保険事務所 中川 雅洋 長崎県中央保健所 中澤 和男 中澤 千弘 中島 恵子 中島 賢二 中嶋 幸生 永島 宏子 長瀬産業株式会社 永田 美紀 中野 澄枝 永野 孝志 中野 啓史 中野 雅美 永原 勢津子 中原 正勝 永平 もえぎ 中村 桂井子 中村 大介 中村 良樹 有限会社 中村産業 仲本 千佳子 株式会社 なゆた 成田 幸子 名和 久子 南部 昌弘 新潟県信用農業協同組合連合会 新村 昌弘 西 正 西岡 弘江 西島 加代子 西田 厚志 西出 稔 西原 要 西部 雅 西村 和真 西村 浩志 仁田原 浩明 株式会社 日幸金属工業所 株式会社 日商エイジェンシー 日鉄物産株式会社 日東交通株式会社 二宮 和子 二宮 法久 一般社団法人 日本CL建設のな生き方学会 日本医科大学千葉北総病院 一般社団法人 日本ガス協会 一般社団法人 日本建設業連合会 社会貢献活動協議会 日本製紙連合会 日本製鉄株式会社 日本生命保険相互会社 一般社団法人 日本難病・疾病団体協議会 一般社団法人 日本民営鉄道協会 日本労働組合総連合会	株式会社 ニヤクコーポレーション 庭前 裕樹 ノーベルファーマ株式会社 野上 信二 野崎 孝子 野島 尚恵 野田 文美 野中 淳代 ノバルティス ファーマ株式会社 延 浩子 延田 尚史 株式会社 パークゴルフコンサルタント Harvey Paul A.S. 萩原 明子 橋山 幸一 馬上 星一 長谷川 朝直 ハセガワ ケイ 秦 賢司 +81WIN 八戸まべちライオンズクラブ 服部 忠 パナソニック株式会社 パナソニックホームズ株式会社 花房 浩治 株式会社 はなまる 有限会社 ハビイ 濱 克彦 浜谷 秀孝 濱野 幸枝 早川 晶 早川 英子 はやかわこどもクリニック 林 志郎 林 万喜 早田 千鶴子 速水 節子 原田 浩次 公益財団法人 原田積善会 針生 清高 萬實 起志 阪和興業株式会社 株式会社 ビーエル 株式会社 ビースプランニングカンパニー 有限会社 ビービービー 東山内科・小児科 樋口 厚子 樋口 清江 樋口 礼恩 株式会社 日立ハイテク 火ノ川 好信 株式会社 Human 平井 俊子 平井 博夫 平尾 美和 平川 潤子 平澤 和美 平野 朋香 平山 忠之 広羽 一昭 株式会社 ファーストガレッジS ファーベル ファリーダ・ラーマン 株式会社 ファンコミュニケーションズ 株式会社 Fortune KK	深澤 重幸 福井市総合ボランティアセンター 福井フェニックスライオンズクラブ 福井本丸ライオンズクラブ 福岡中央ライオンズクラブ 福岡リパティライオンズクラブ 福田 悦子 福地 悟 福地 誠一郎 福丸 諒 藤澤 裕子 藤田 秀明 藤田 真理 富士電機株式会社 藤平 一雄 藤本 敏彦 藤本 奈美恵 藤本建設株式会社 藤山 優子 武州製薬株式会社/武州製薬ユニオン 洲上 一宏 洲田 天彦 一般社団法人 不動産協会 プリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社 古澤 文野 古田 美津子 株式会社 プレジャーハンティング 普連土学園 宗教委員会 株式会社 フロウシンク 株式会社 平安堂 別所 文雄 ベルテック トレーディング株式会社 許 南浩 認定特定非営利活動法人 朴の会 細井 廣一 細田 妙子 細田 裕美 堀田 和子 ほのぼのサロン 堀川 哲男 堀口 泰弘 本馬医院 BONBON CANDY にじいるじかん 前田 真理子 眞尾 貴年 眞下 麻紀子 増岡 雄一 榎谷 真 松井 廣和 松岡 瑞雄 松川 景子 松下 美由紀 松田 恵子 松田 信夫 有限会社 松田興業 松谷 佳代 松谷 智子 松永 憲一郎 松見 玲香 松村 伸子 松本 早百合 松本 登紀子 丸 光恵 丸岡 美恵子 丸谷 杏菜	丸紅株式会社 丸山 朋恵 丸和バイオケミカル株式会社 三浦 厚子 三重ファミリールーム 三上 悦子 三杉 篤史 三井物産株式会社 三橋 治美 三橋 美緒 三菱商事株式会社 三野 耕司 簗輪 憲一郎 宮城 智央 三宅 大樹 都城ブルースカイライオンズクラブ 宮崎 志保 宮澤 敦子 株式会社 宮下保険サービス 宮の台幼稚園バザー委員会 宮村 富美子 宮本 和敏 宮本 浩樹 三好 紗衣子 牟田 謙一 村上 柊馬 村瀬 はるみ 村山 将人 室谷 哲哉 メイトーサービス株式会社 株式会社 メイワ メガケアサービス関西株式会社 目黒 悦子 NPO法人 目黒ユネスコ協会 メディカルライオンズクラブ 有限会社 メルシー 毛利 将吾 モデラート株式会社 元井 恵子 元田 雅弘 本山 寛 森 賢治 森 陽子 森岡 浩二 森下 敏郎 森田 洋子 守屋 節子 森山 健一 森山 康基 守山内科・小児科 森脇 浩一 モルガンスタンレー 株式会社 ヤオコビジネスサービス 焼肉旭 矢田 美麗 柳澤 隆昭 柳野 希代子 柳本 しほ 柳瀬 均 矢野 聡 矢野 博 矢花 恵子 藪口 美也子 山内 秀晃 山形県庄内総合支庁
---	---	---	--

八巻 恭治 山口 利子 やまさき えりか 山崎 聡 山崎 貴子 山崎 文之 山崎 幹子 山崎 由佳 株式会社 ヤマザワ保険サービス 山下 公輔 山下 美香 山下 雄一 やましる小児科 山城 武夫 山田 勝三 山田 雄介 山田 容子 大和 健一 山梨県峡東保健福祉事務所 山部 智寿	山室 達夫 山本 章子 山本 暁彦 山本 勝利 山本 耕平 山本 敬 山本 信江 山本 真理子 山本 和加子 山陸 康博 株式会社 ゆう 有限責任事業組合 チャイルドケア研究所 行橋ライオンズクラブ 横井 小夜子 横井 浩 横堀 隆 横幕 航平 横松 康介 吉井 智美	吉岡 幸代 吉岡 佑樹 吉川 隆 吉田 知史 吉沼 幸一 吉野 純爾 吉野 智子 吉原 千佳 株式会社 吉半 吉村 公一 吉村 志津美 吉村 源 吉本 哲也 株式会社 淀川製鋼所 米倉 邦子 米山 望 代々木大山歯科医院 ライオンズクラブ国際協会337-A地区 FWT委員会 ライオンズクラブ国際協会330-C地区	ライオンズクラブ国際協会337-A地区 ライオンズクラブ国際協会332-A地区FWT ライオンズクラブ国際協会332複合地区ガバー協議会 ライオンズクラブ松山 LIVE EMPOWER CHILDREN2020 ラッセル・インベストメント株式会社 ラトリエ・デュ・グー 利川 芳江 一般財団法人 緑風会 林 裕仁 株式会社 ワールドファミリー 若杉 和枝 若生 みどり 和田 美穂 和田 由美子 ワタキューセイモア株式会社 渡辺 弘明 渡部 眞澄 渡辺 由美子
---	---	--	---

上記の他、アフラック生命保険株式会社、アフラック販売代理店及び社員の皆様には、キッズサポートを通じてペアレンツハウス、ならびに小児がん経験者・がん遺児奨学金制度の運営をはじめとした当会の活動に数多くのご寄付（5,404件）をいただきました。

匿名ご希望の方からも多数で寄付をいただいております。

募金者一覧

※敬称略

株式会社 K2 インターナショナルジャパン Shop ART 味の嘉づき 株式会社 一の宮カントリー倶楽部 医療法人 三幸会 小澤診療所 医療法人 たにざき皮膚科クリニック 海のそばのカフェ bliss point 有限会社 永楽食堂 大原小児がん基金	片岡 裕美 関西学院高等部吹奏楽部 杉山 太一 カレンカップ 成蹊大学ボランティア支援センター 税理士法人 松本 聖路加小児医療センター ソフトバンク株式会社 第一生命労働組合 上野総合営業職支部 有限会社 築地にしん太助	株式会社 東京ドームスポーツ 文京総合体育館 東京メディカルライオンズクラブ 土手 多喜子 トライム 長澤 一成 中田中央歯科医院 沼津経営塾 株式会社 治田タイヤ 福井フェニックスライオンズクラブ	有限会社 ミートステーション 水琴トライムボランティア連合 ヤフー株式会社 株式会社 コメテラス 龍津寺 良酒処 さぶん酒店 レスリーチャンバースデー募金 レモネードスタンド in ふくおか 実行委員会 ローソン浜寺石津西 4 丁店
---	--	--	---

他、多くの方からご支援をいただきました。ありがとうございます。

- ※当会では寄付金について以下の通り取り扱っております。
- 寄付：特定の個人や法人から集まった募金
 - 募金：不特定多数の方からの支援金（募金箱やイベント会場など）

公益財団法人がんの子どもを守る会2021年度事業報告書

2021年4月1日～2022年3月31日

2022年6月16日 発行

公益財団法人がんの子どもを守る会

〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12
TEL03-5825-6311（代表）